

金沢工業大学 御中

平成30年度 授業調査 報告書

2019.10.8

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1> 本調査の全体像	2
<2> 基本的な分析	7
<3> 学年別の分析	16
<4> 学部・学科別の分析	22
<5> 科目区分別の分析	32
<6> 同一学生群の分析	38
<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
<8> 全体のまとめ	49

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が14年目となるため、14年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査開始は平成14年度)

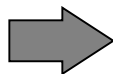
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容						
有効回答数	1年次生	31,444件					
	2年次生	30,588件					
	3年次生	24,830件					
	4年次生	1,213件					
	合計有効回答数	88,075件					
年別回答数推移	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票	
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票	
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055		
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917		
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494		
	年度	前期	後期	全回答数	調査票	新調査票	
	平成21年度	42,446	43,962	86,408			
	平成22年度	48,541	48,175	96,716			
	平成23年度	53,166	49,870	103,036			
	平成24年度	47,317	46,666	93,983			
	平成25年度	47,317	45,003	92,320			
	平成26年度	45,014	50,767	95,781			
	平成27年度	48,882	43,421	92,303			
	平成28年度	47,946	41,113	89,059			
	平成29年度	46,988	39,594	86,582			
	平成30年度	47,659	40,416	88,075			
	対象科目	500科目					
	実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 実施期間:各学期の各授業科目の最終日に実施した。 ● 実施方法:記名式。科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。 ● 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。 					
	調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント						

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度、一部は平成14年度から)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。



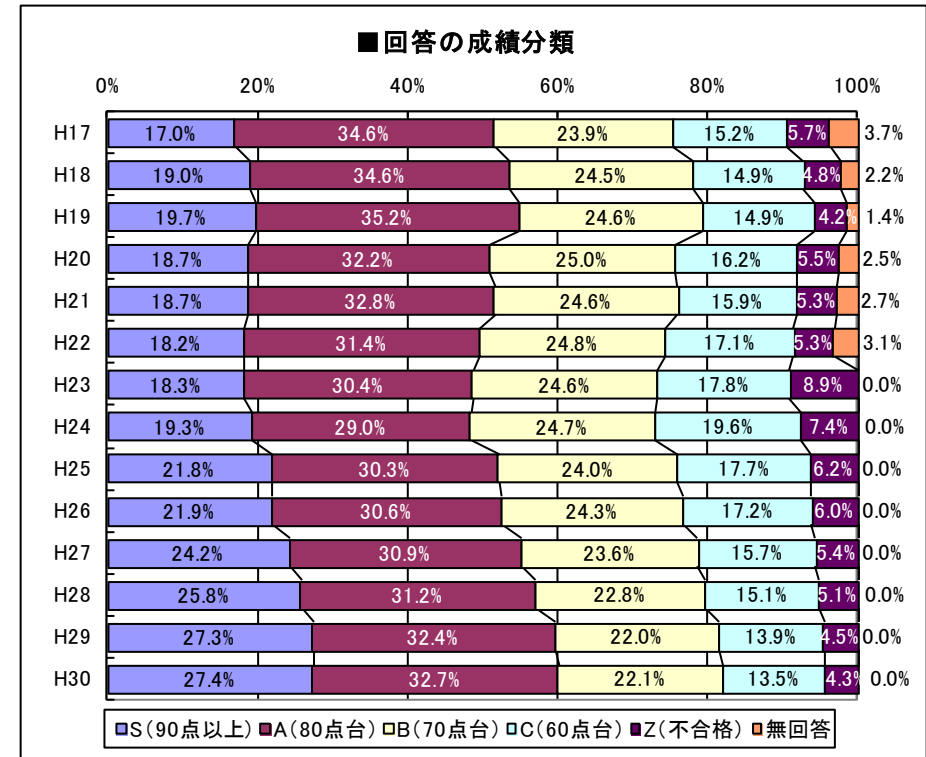
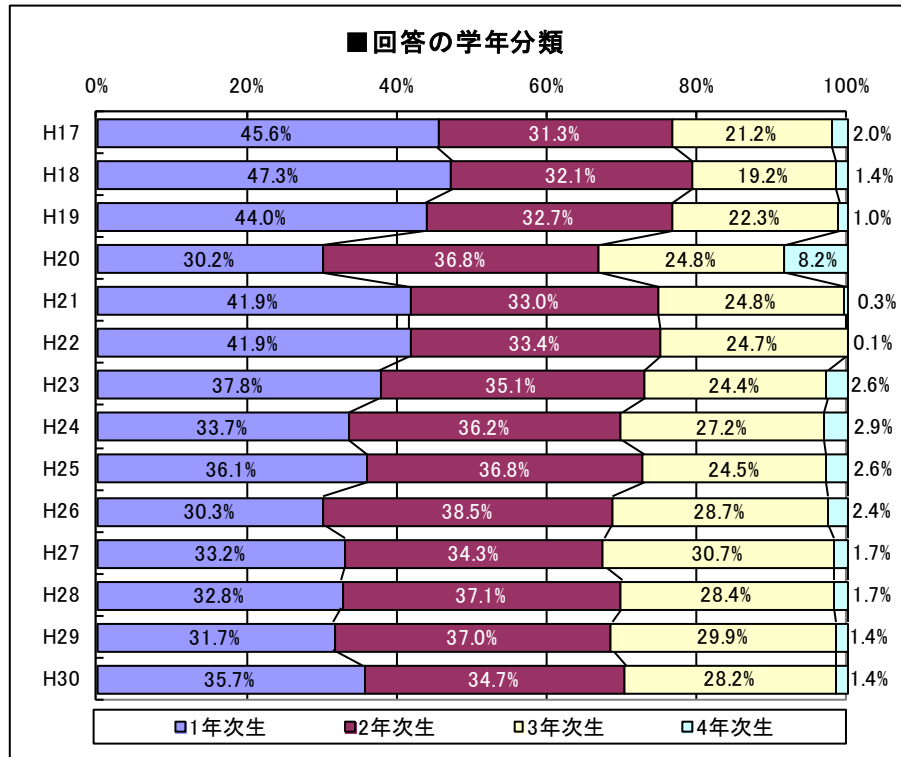
	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 ※平成27年度の後期より選択肢を変更している。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

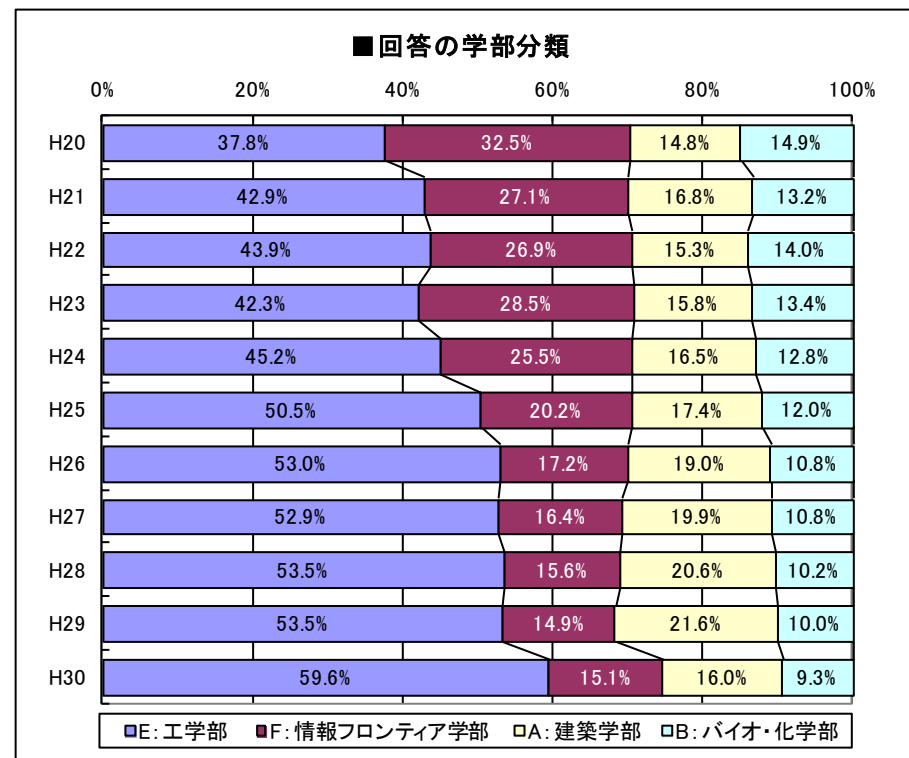
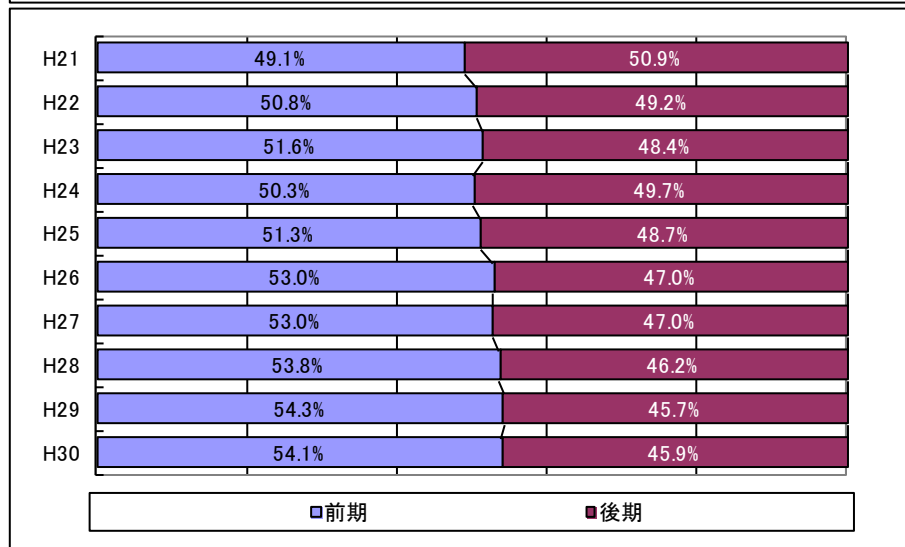
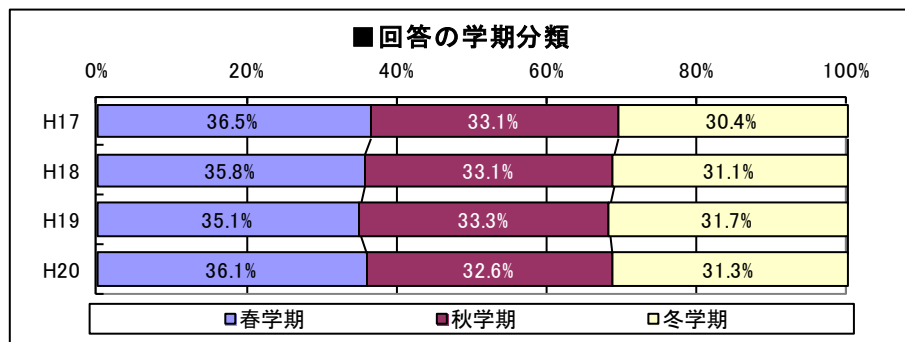
- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」の設問は平成14年度、「K」の設問は平成15年度より内容が同じなのですべての期間に渡って比較ができるが、それら以外の設問は変更後の平成17以降で比較を行った。
- 平成27年度の後期より、設問D(1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。)の選択肢を変更している。これまでは「1. 2時間以上、2. 1～2時間、3. 1時間程度、4. 30分程度、5. 学習は特にしなかった」の5択であったが、後期からは「1. 3時間以上、2. 2～3時間、3. 1～2時間、4. 1時間程度、5. 30分程度、6. 学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。

<1-2> 回答者の基本属性

- 回答を学年別に見ると、「1年次生」が35.7%、「2年次生」が34.7%、「3年次生」が28.2%、「4年次生」は1.4%であった。
- 成績で分類すると、「S」は増加傾向が続いて過去最高の27.4%となり、「A」が32.7%、「B」が22.1%、「C」が13.5%、「Z」が4.3%で、全体的に前回からほぼ横這いであった。



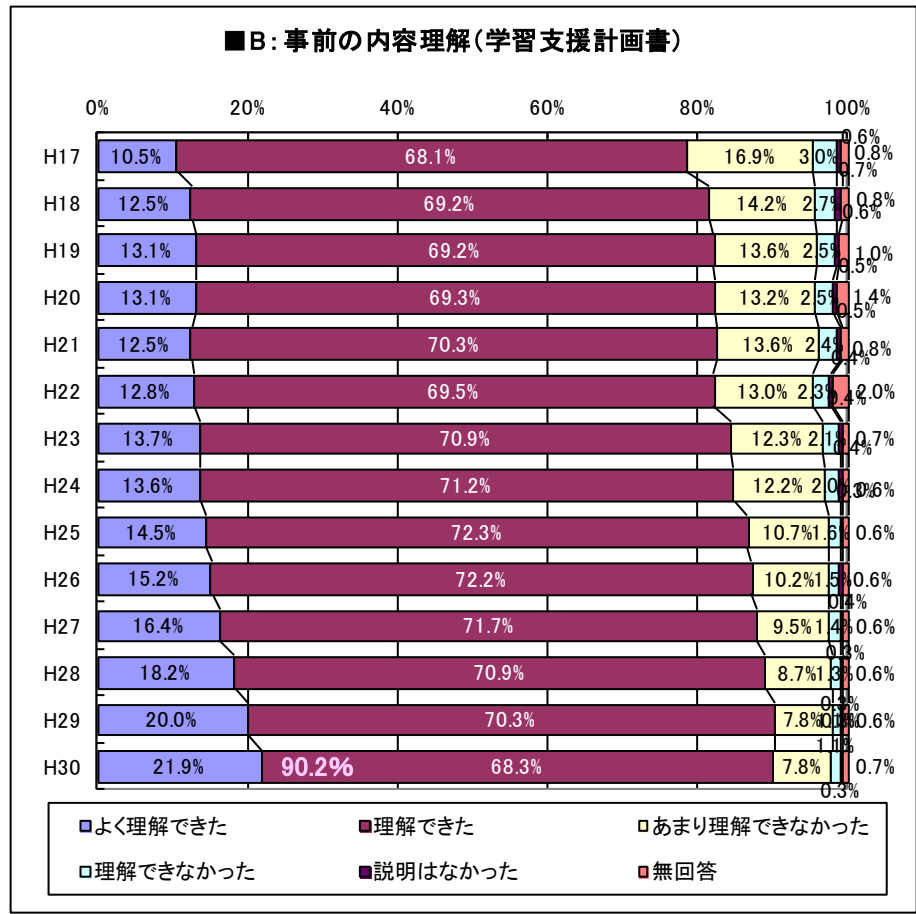
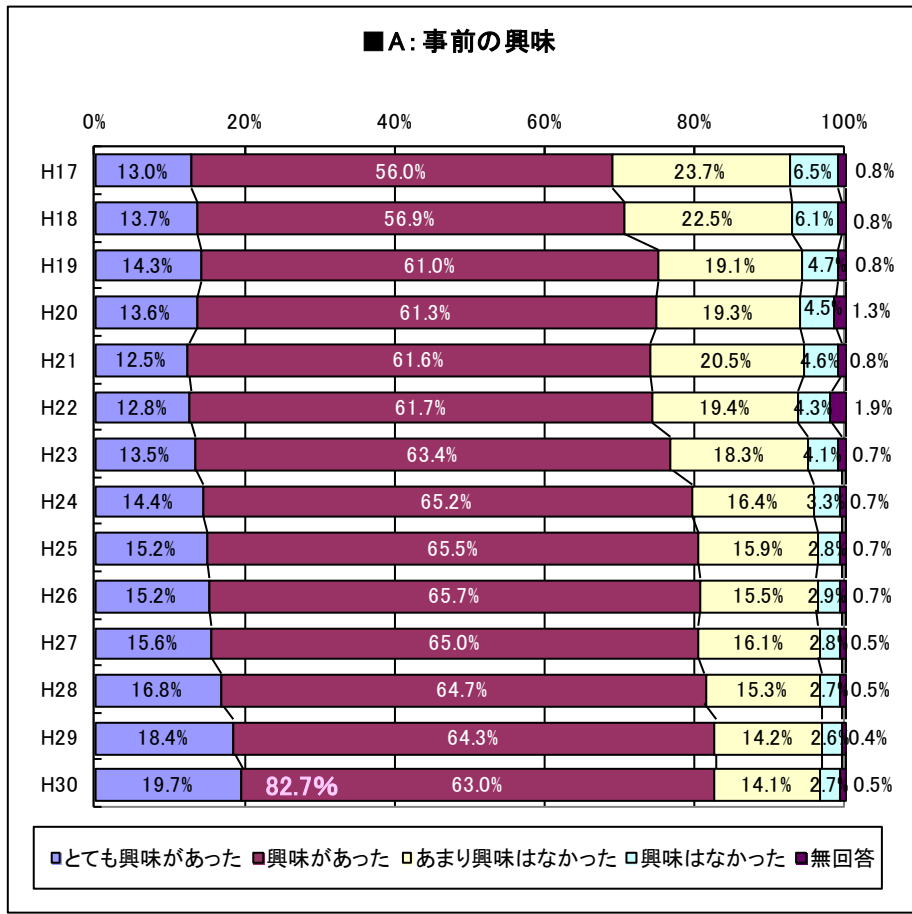
- 前後期の2期制となったH21年以降で学期ごとの回答数を比較すると、「前期」は前回よりわずかに減少して54.1%となり、「後期」は45.9%であった。
- 学部・学科構成は前回までの4学部14学科から今回は4学部12学科となっているが、学部構成はほとんど変わらないため、同じ4学部の構成で比較をしている。学部名に関しては、前回までの「V:環境・建築学部」が今回から「A:建築学部」となっている。
- 上記の学部・学科構成の変更があったため変化が出ており、今回は「E:工学部」が59.6%、「F:情報フロンティア学部」が15.1%、「A:建築学部」が16.0%、「B:バイオ・化学部」が9.3%となっていた。



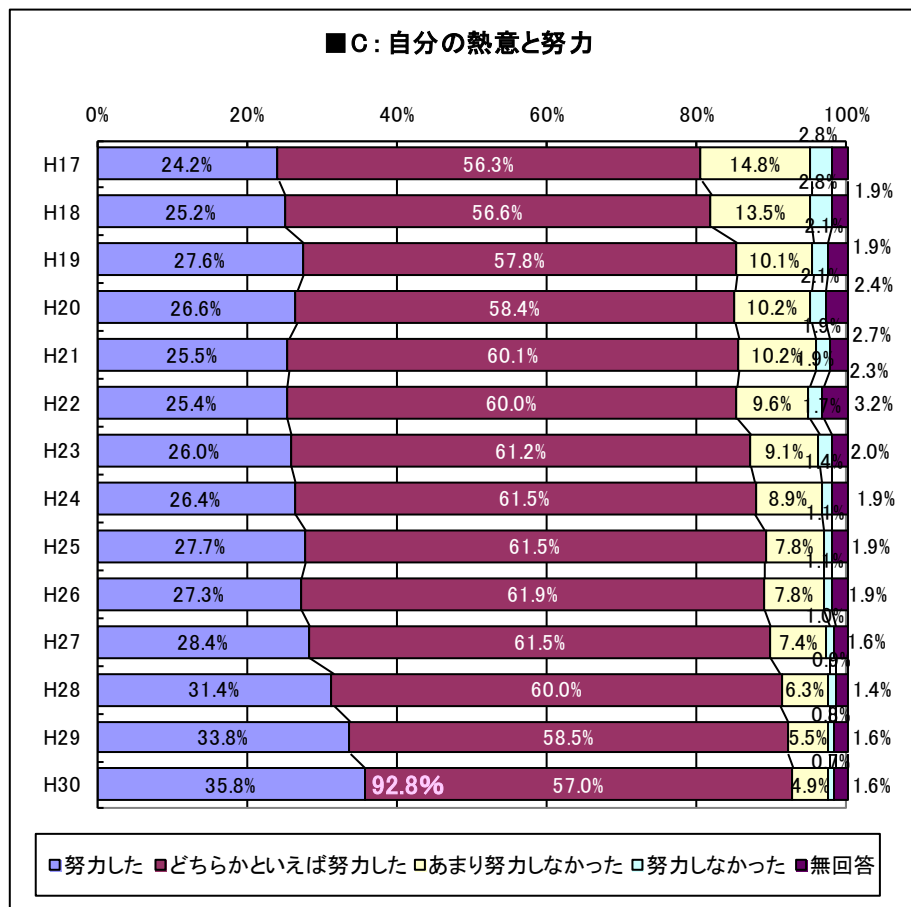
※H30に4学部14学科から4学部12学科に変わり、各学部に含まれる学科が異なっているため、学部ごとの構成比にも大きな変化が出ている。

<2> 基本的な分析

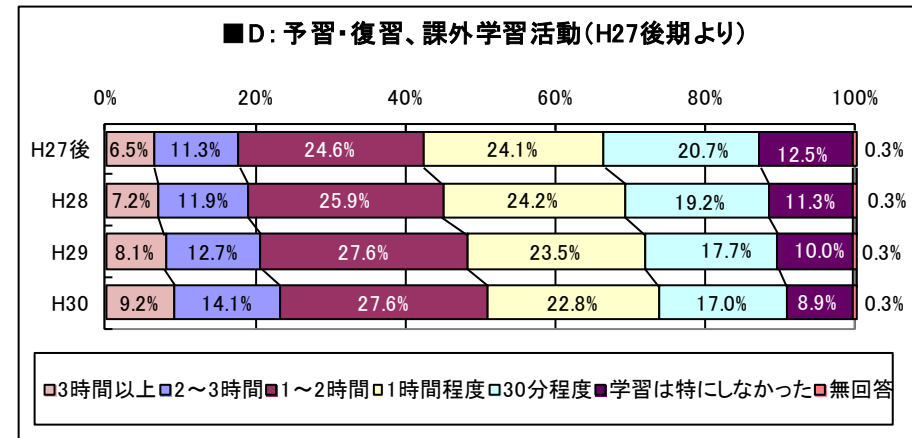
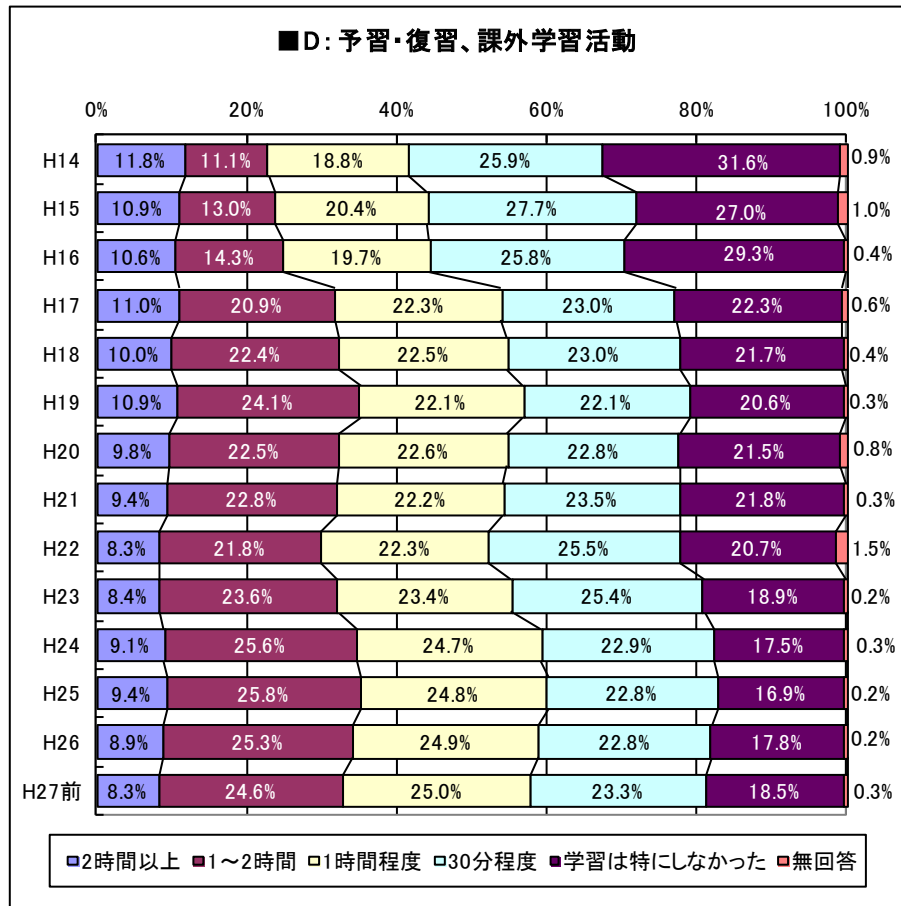
- 「A:事前の興味」では、「とても興味があった」が19.7%と前回を1.3ポイント上回って過去最高となった。そして、「興味があった」の63.0%を加えると、前回と同様に過去最高の82.7%が授業に興味を持っていたという意見であった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」では、「よく理解できた」が過去最高の21.9%となり、「理解できた」の68.3%を合わせると90.2%であった。肯定的な意見の合計は過去最高であった前回を0.1ポイント下回ったものの、事前の内容理解の評価は非常に高い状態を維持していた。



- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という問いであるが、「努力した」が前回は2.0ポイント上回って過去最高の35.8%であった。そして、「どちらかといえば努力した」の57.0%を加えた肯定的な意見の合計も過去最高の92.8%となり、継続的に増加傾向が続いていた。



- 「D: 予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか?」という質問であるが、H27後期(H27後)より選択肢が変更になっているため、別のグラフで比較をしている。
- 時間の長いものから見ると、「3時間以上」が9.2%、「2～3時間」が14.1%であり、これらはいずれも過去最高であった。次いで、「1～2時間」は前回と同じ27.6%であり、ここまでの結果を見ると、学習時間は長くなっていると言える。一方、「学習は特にしなかった」は過去最低の8.9%となっていた。
- 選択肢が変更となる前と比較しても、「学習は特にしなかった」「30分程度」はいずれも過去最低となっており、長期的に見ても学習時間は長くなってきていると言える。

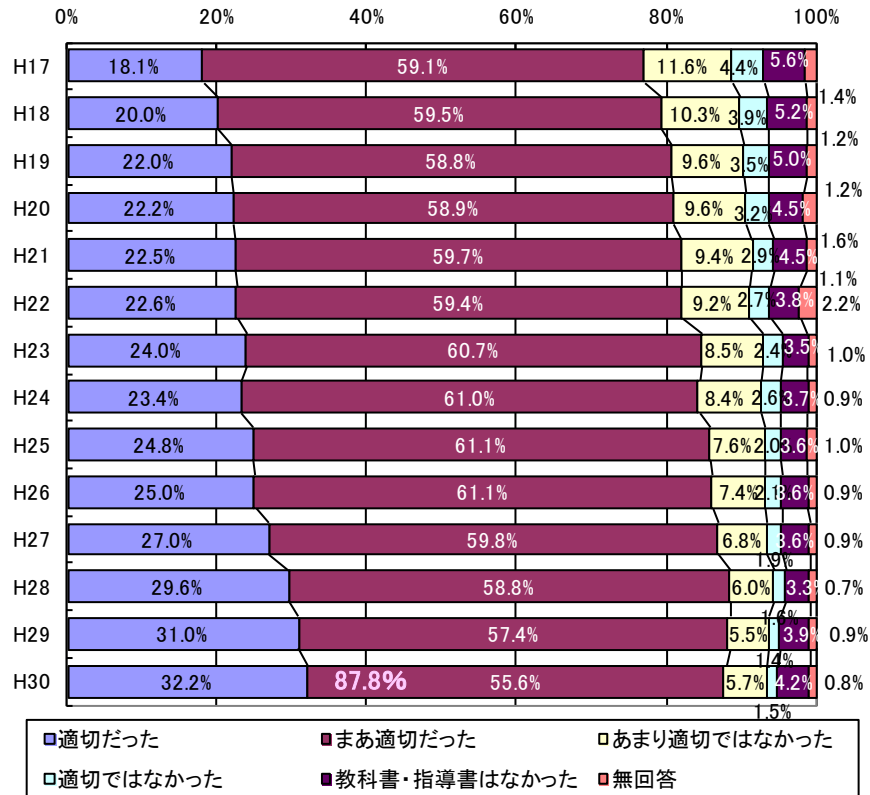


※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか?」であった。

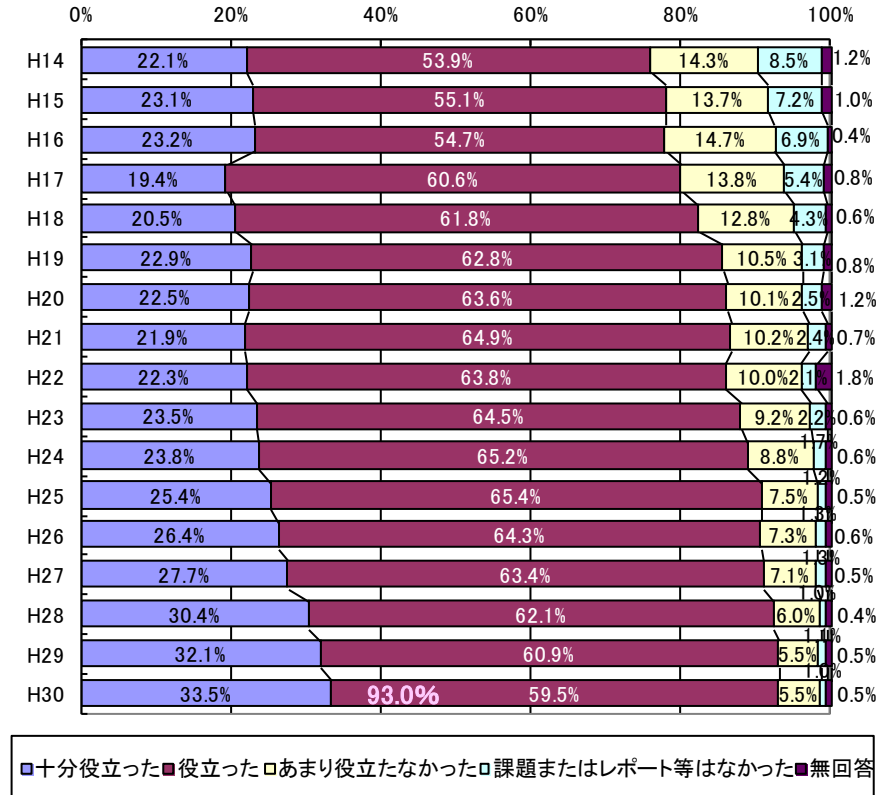
※H27後期から選択肢が変わったが、設問文は変わっていない。

- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」が過去最高の32.2%であり、「まあ適切だった」の55.6%を加えると87.8%が肯定的な意見であった。そして、肯定的な意見の合計は前回を0.6ポイント下回ったものの、非常に高い評価が続いていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」が過去最高の33.5%で、「役立った」の59.5%を加えると肯定的な意見の合計は93.0%となり、過去最高の前回と同じとなっており、「課題・レポート」の評価も非常に高い状態が続いていた。

■E:教科書・指導書の適切さ

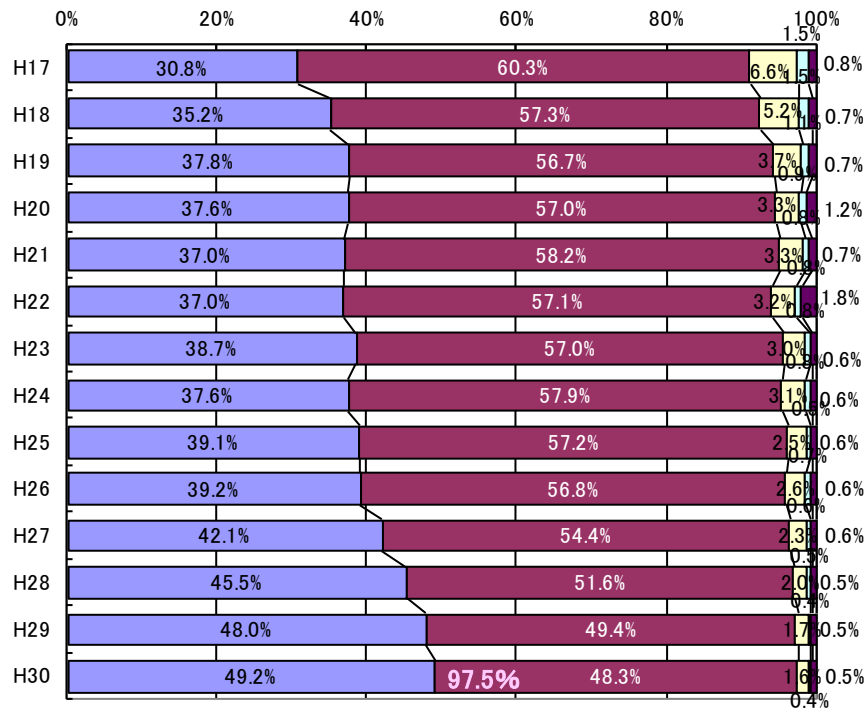


■F:課題・レポートの適切さ



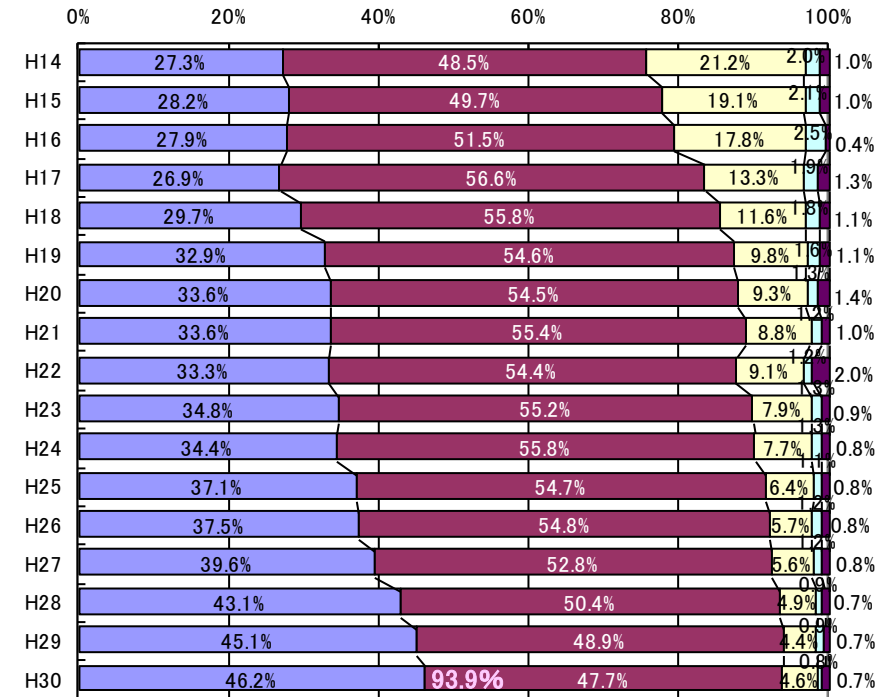
- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」が過去最高の49.2%、「ほとんど沿っていた」が48.3%で、肯定的な意見の合計は97.5%であった。そして、以前との比較を見ると、肯定的な意見の合計は継続的に増加しており、今回も前回を0.1ポイントと、わずかに上回っていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」が過去最高の46.2%であり、「どちらかといえば適切であった」の47.7%を加えると93.9%が肯定的な意見であった。そして、肯定的な意見の合計は前回を0.1ポイントとわずかに下回ったものの、高い評価が続いていた。

■ G: 学習支援計画書との一致



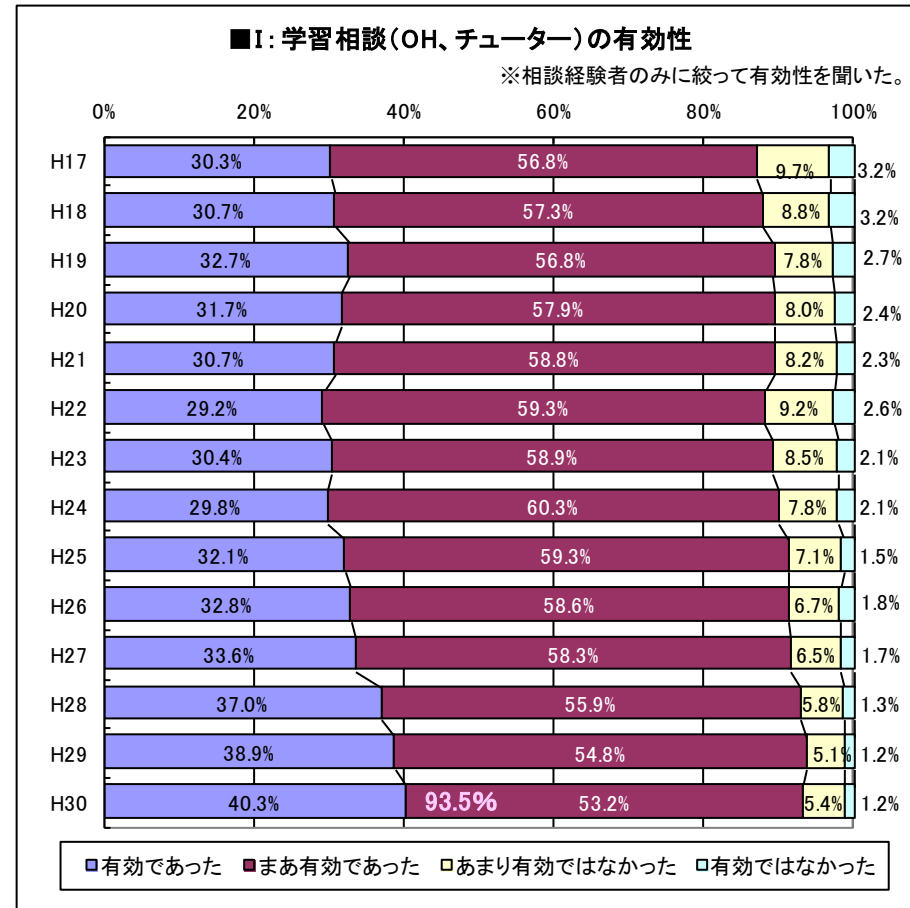
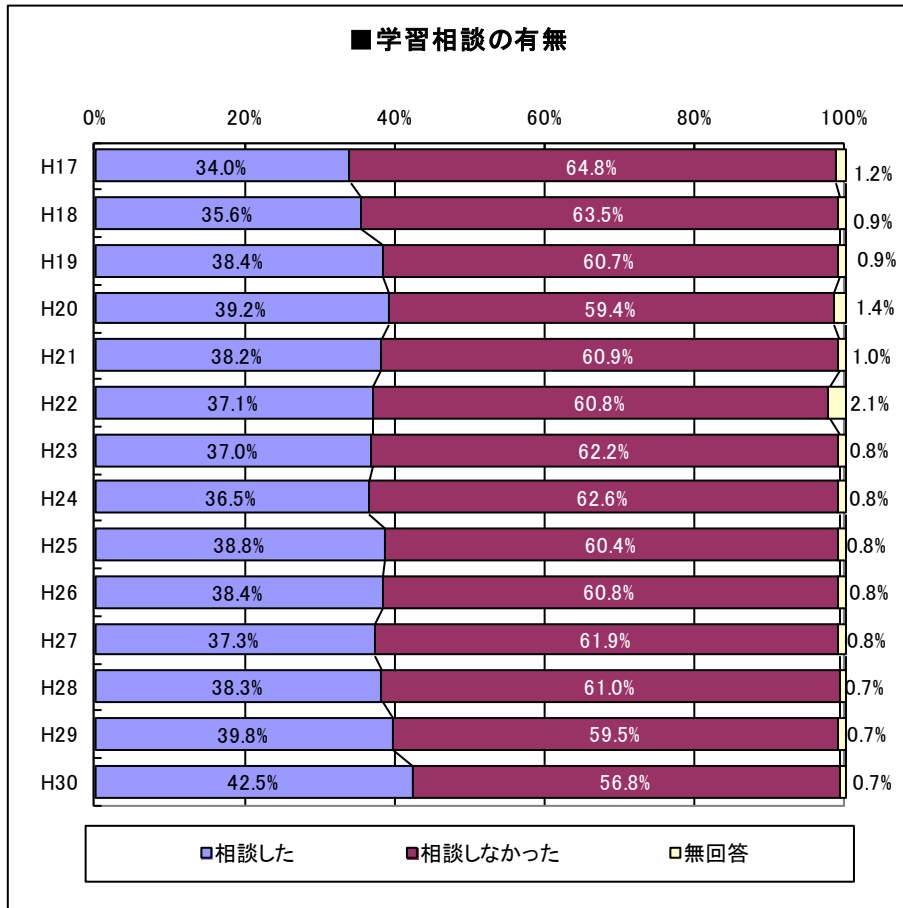
□沿っていた ■ほとんど沿っていた □あまり沿ってなかった □沿ってなかった ■無回答

■ H: 授業の進度の適切さ

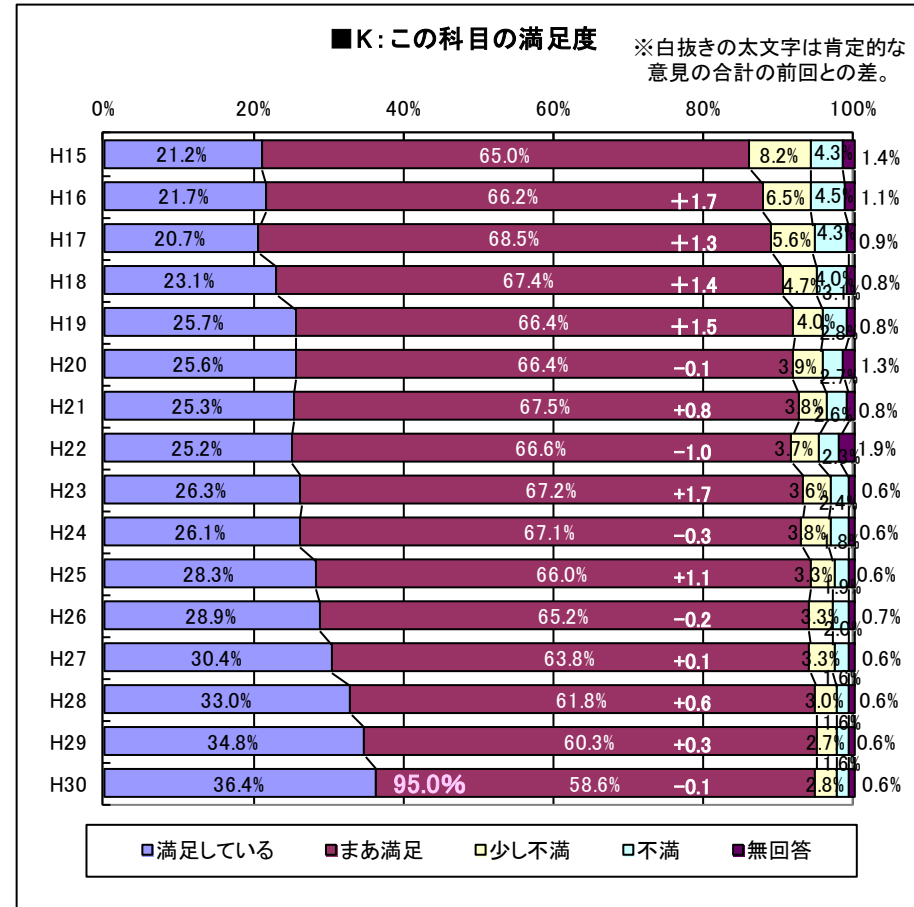
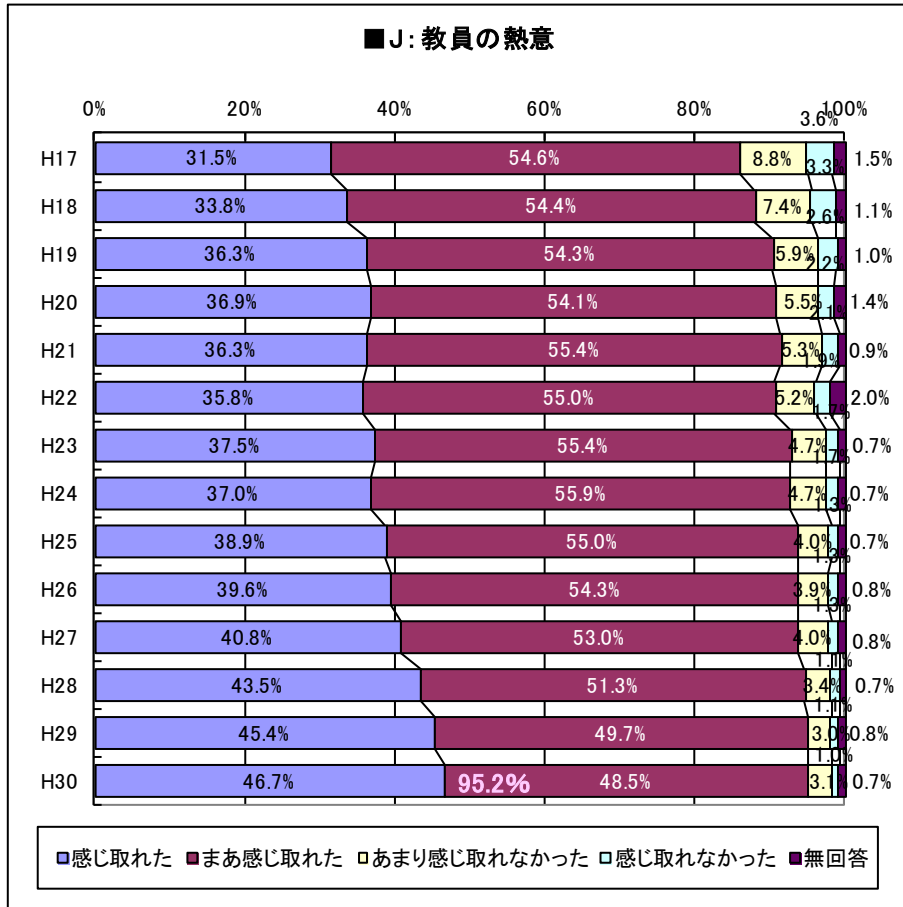


□適切であった ■どちらかといえば適切であった □進度は速かった □進度は遅かった ■無回答

- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であり、回答は「有効であった」～「有効ではなかった」という4段階の評価と、「相談しなかった」という5つの選択肢で聞いている。
- まず、4段階の評価で回答した学生は「相談経験者」として、「学習相談の有無」を見ると、「相談した」が42.5%で前回は2.7ポイント上回って過去最高となった。一方、「相談しなかった」は56.8%であった。
- 次に4段階の評価では、「有効であった」が40.3%で初めて4割を超えて過去最高となった。そして、「まあ有効であった」の53.2%を合わせると肯定的な意見は93.5%で、前回は0.2ポイントとわずかに下回ったものの、非常に高い評価が続いていた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」が46.7%で過去最高となり、「まあ感じ取れた」の48.5%と合わせると肯定的な意見は95.2%で、前回は0.1ポイント上回って、こちらも過去最高となった。
- 「K:この科目の満足度」では「満足している」が36.4%で過去最高となった。そして、「まあ満足」の58.6%を合わせると満足度は95.0%であった。
- 満足度は前回は0.1ポイント下回ったものの、非常に高い状態が続いていた。特に「満足している」という回答は前回は1.6ポイント上回っており、増加傾向が続いていた。



<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

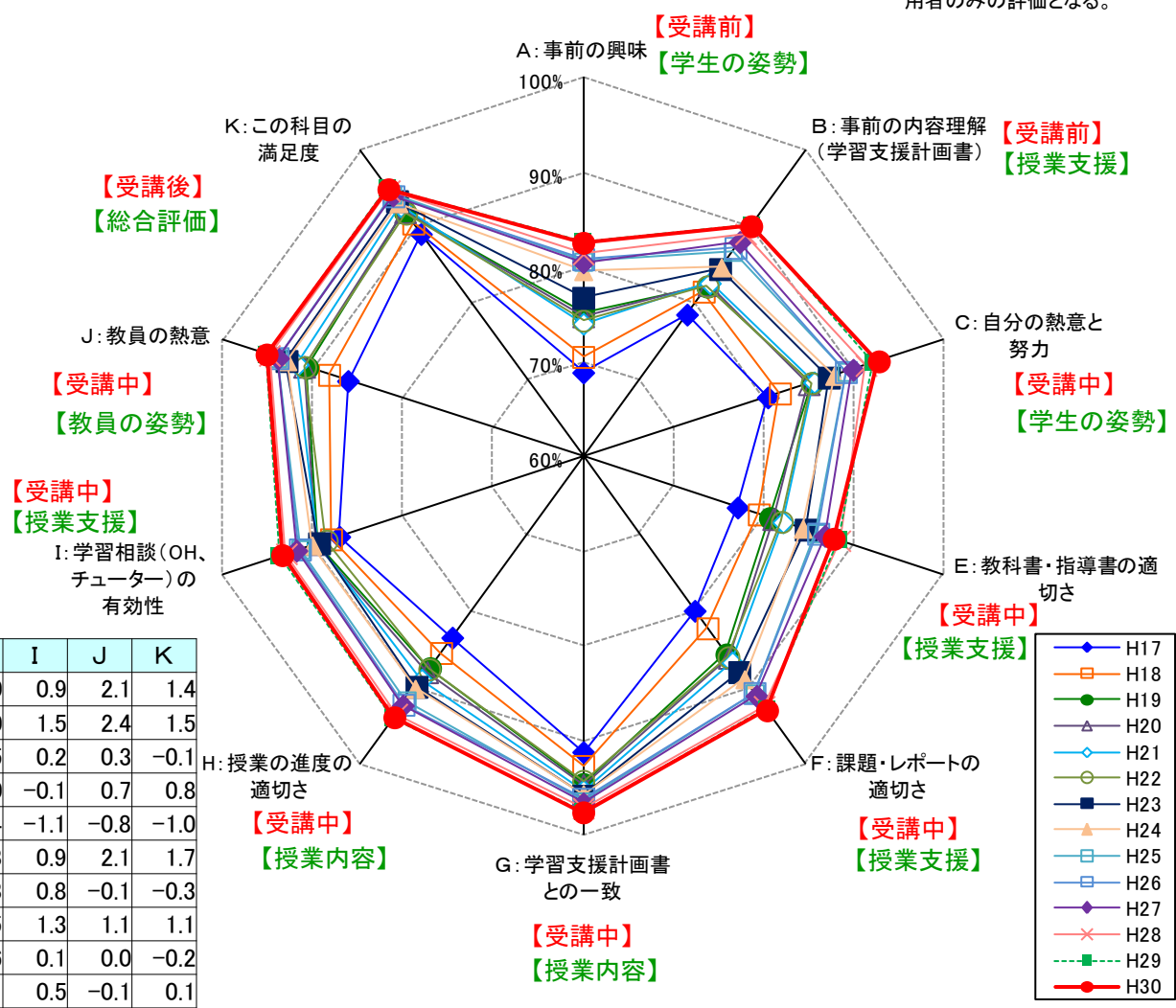
- 肯定的な意見の割合(%)をレーダーチャートにプロットして比較を行った。比較のできない「D: 予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- 今回は3項目が前回は上回っていた。それは「C: 自分の熱意と努力」「G: 学習支援計画書との一致」「J: 教員の熱意」であり、いずれも過去最高の評価で、特に「C: 自分の熱意と努力」の増加が大きかった。そして、「F: 課題・レポートの適切さ」は前回と同じ評価であった。
- 上記以外の6項目は前回から低下していたが、特に低下が大きかったのは「E: 教科書・指導書の適切さ」であった。ただし、評価としては高い状態を維持していると言える。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24の上昇	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25の上昇	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26の上昇	0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0	-0.3	0.6	0.1	0.0	-0.2
H26からH27の上昇	-0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	-0.1	0.1
H27からH28の上昇	0.9	1.0	1.4	1.7	1.4	0.5	1.1	1.1	1.0	0.6
H28からH29の上昇	1.3	1.1	0.8	0.0	0.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.3
H29からH30の上昇	-0.1	-0.1	0.6	-0.5	0.0	0.1	-0.1	-0.3	0.1	-0.1

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

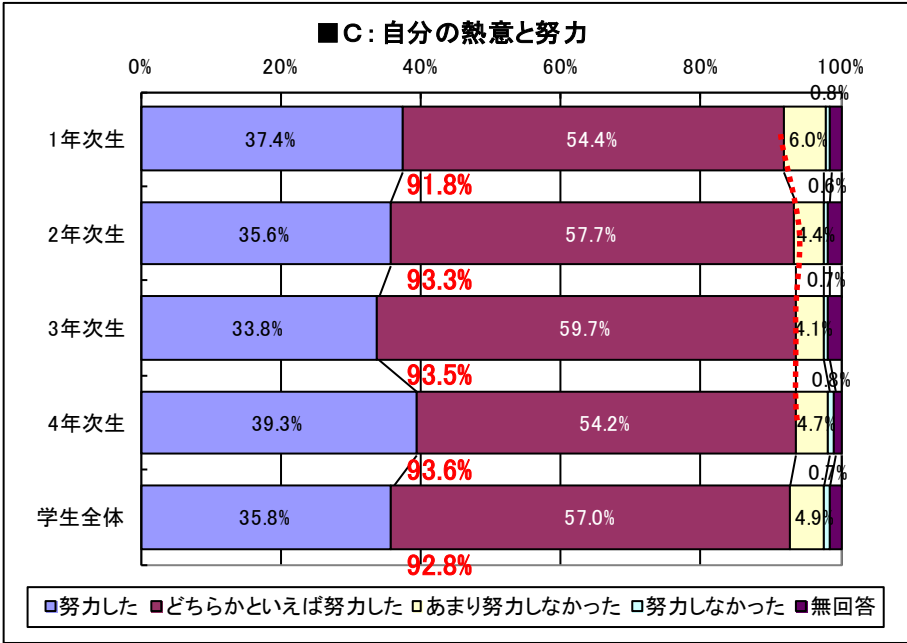
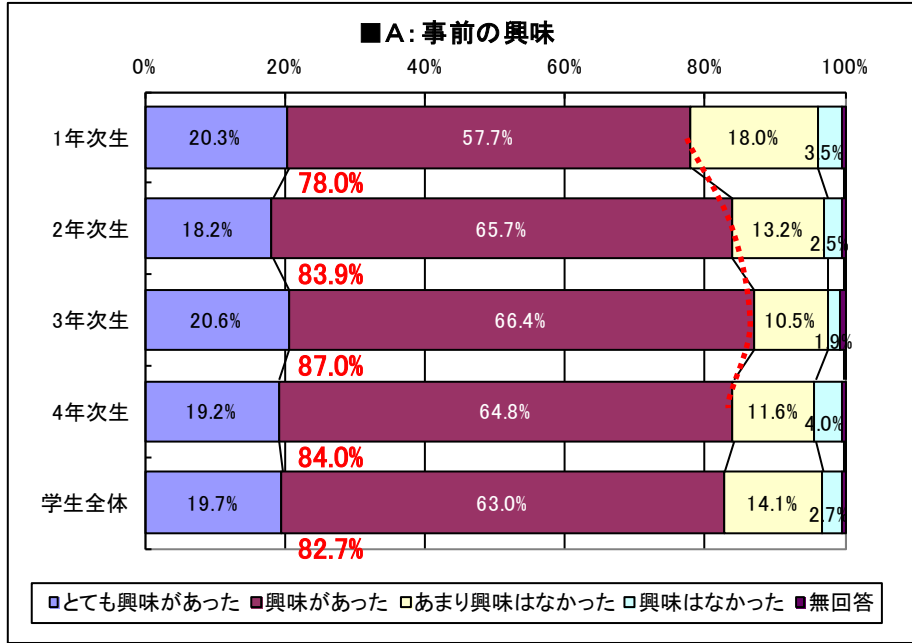
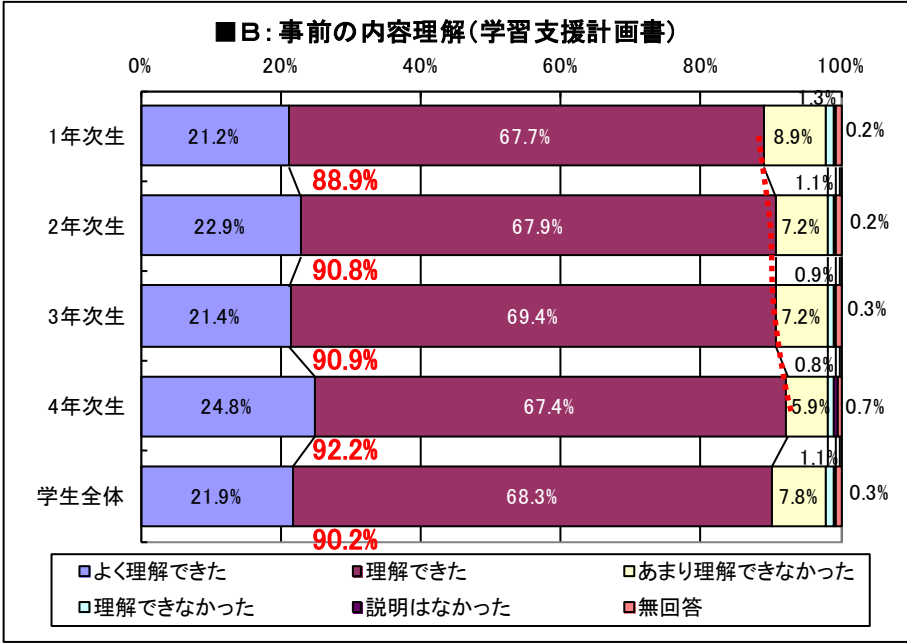
※「I: 学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



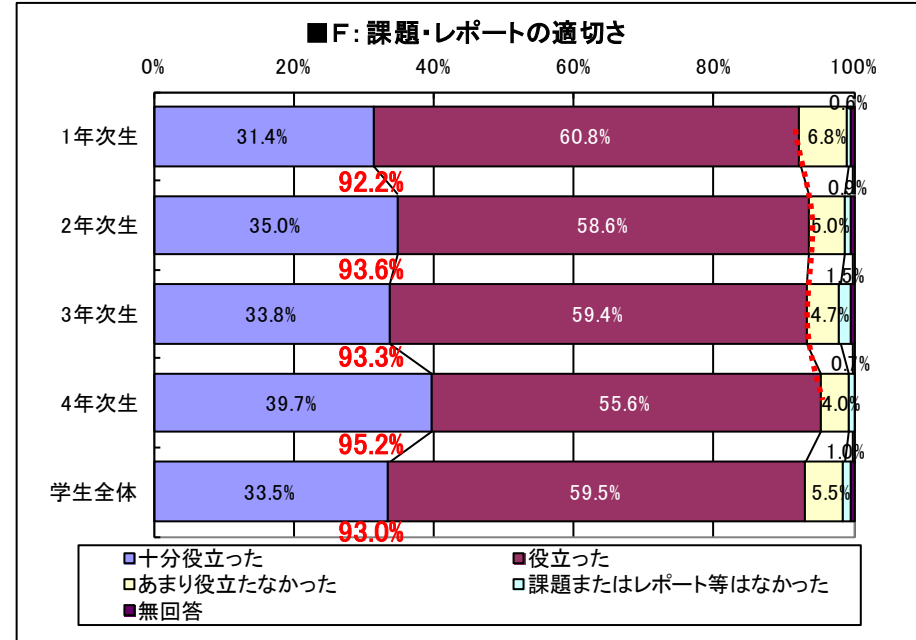
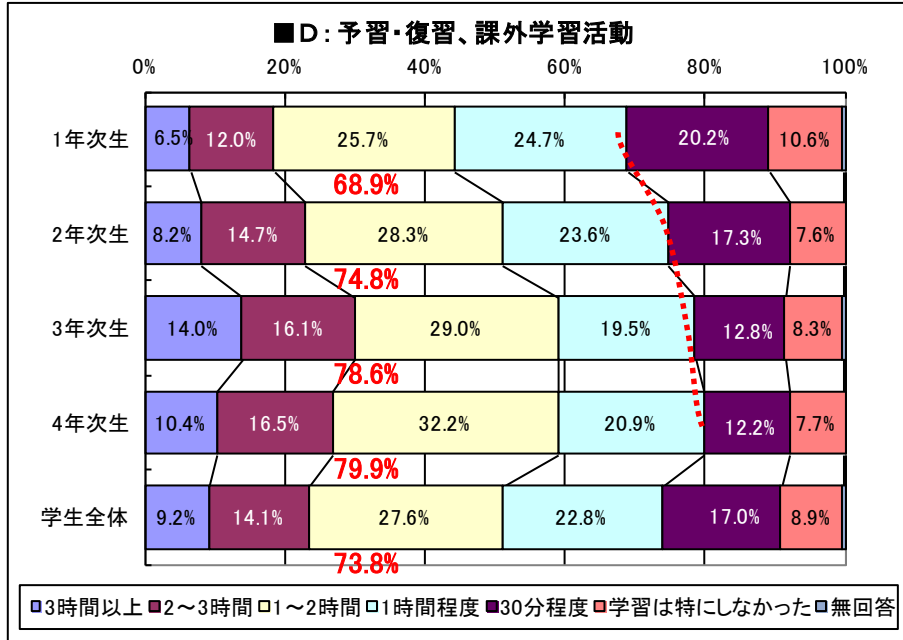
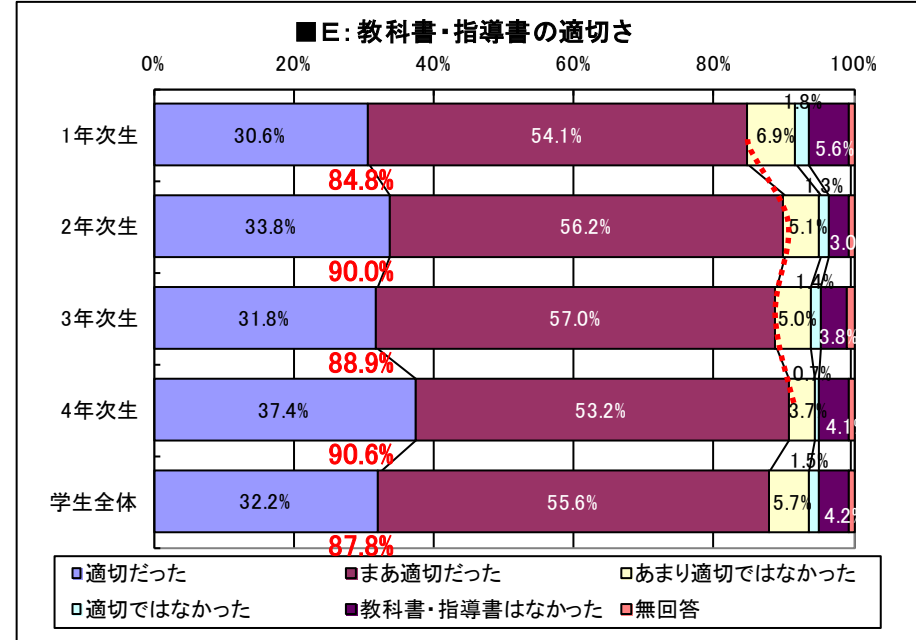
- H17
- H18
- H19
- ▲ H20
- ◇ H21
- H22
- H23
- ▲ H24
- H25
- H26
- H27
- × H28
- H29
- H30

<3> 学年別の分析

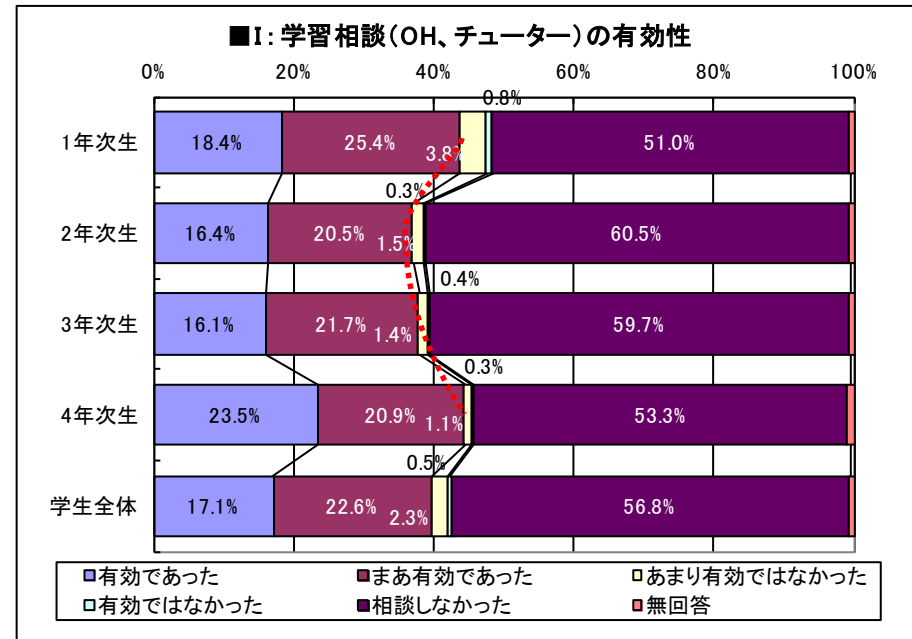
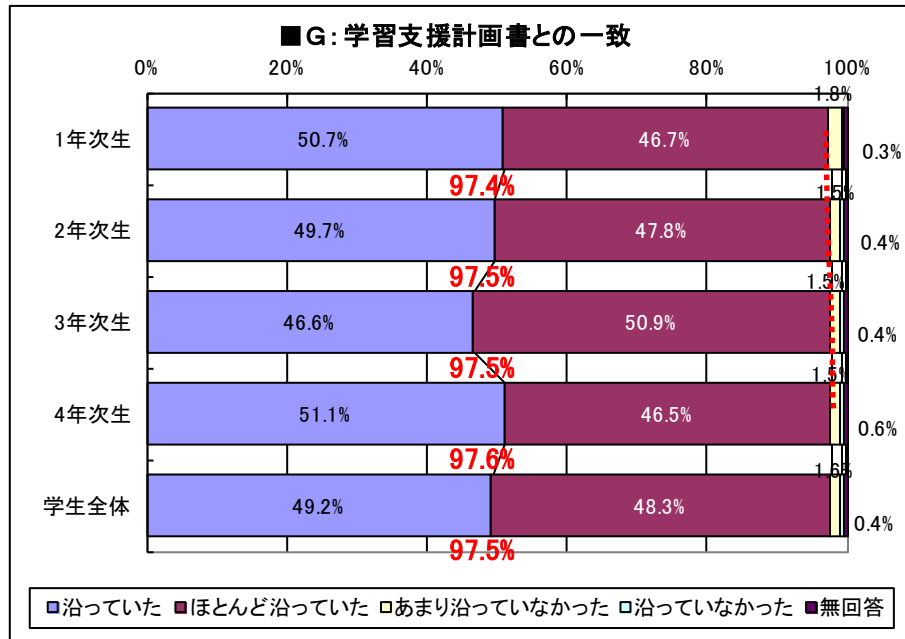
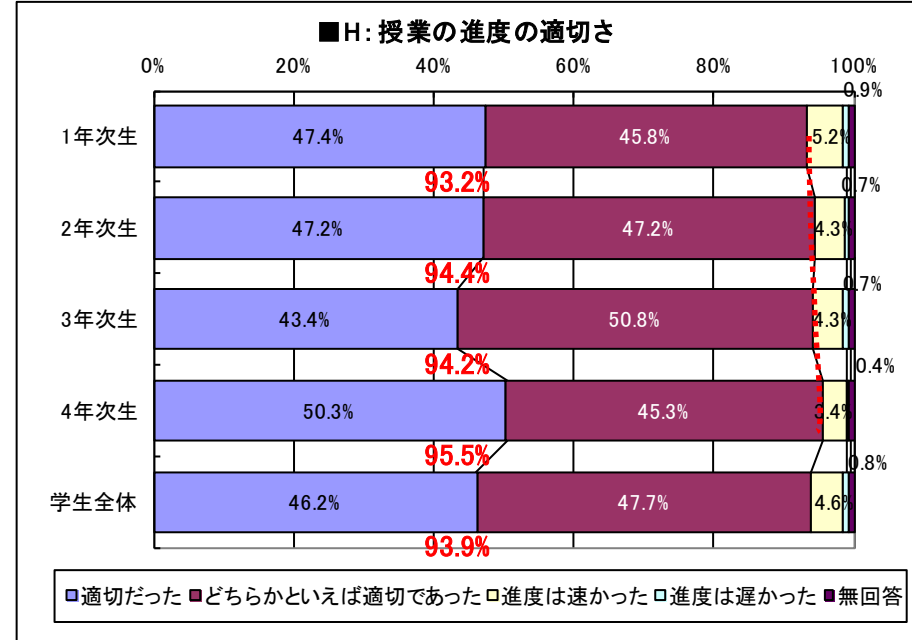
- 「A:事前の興味」に関して、肯定的な意見の合計を学年別に比較すると、「3年次生」が87.0%と最も多かった。そして、「4年次生」が84.0%、「2年次生」が83.9%、「1年次生」が78.0%と続いており、「4年次生」を除くと低学年ほど興味が低く、「3年次生」と「1年次生」の差は9.0ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の肯定的な意見の合計を比較すると、「4年次生」が92.2%で最も多く、「3年次生」が90.9%、「2年次生」が90.8%、「1年次生」が88.9%となっており、低学年に向けて徐々に低下する傾向が見られた。ただし、「4年次生」と「1年次生」との差は3.3ポイントと、大きな差ではなかった。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見の合計は「4年次生」が93.6%と最も多く、「3年次生」が93.5%、「2年次生」が93.3%、「1年次生」が91.8%となっており、ここでも低学年ほど低下する傾向が見られた。「4年次生」と「1年次生」の差は1.8ポイントと小さかったが、「努力した」だけを見ると最も多い「4年次生」が39.3%、最も少ない「3年次生」が33.8%で、差は5.5ポイントとやや大きかった。



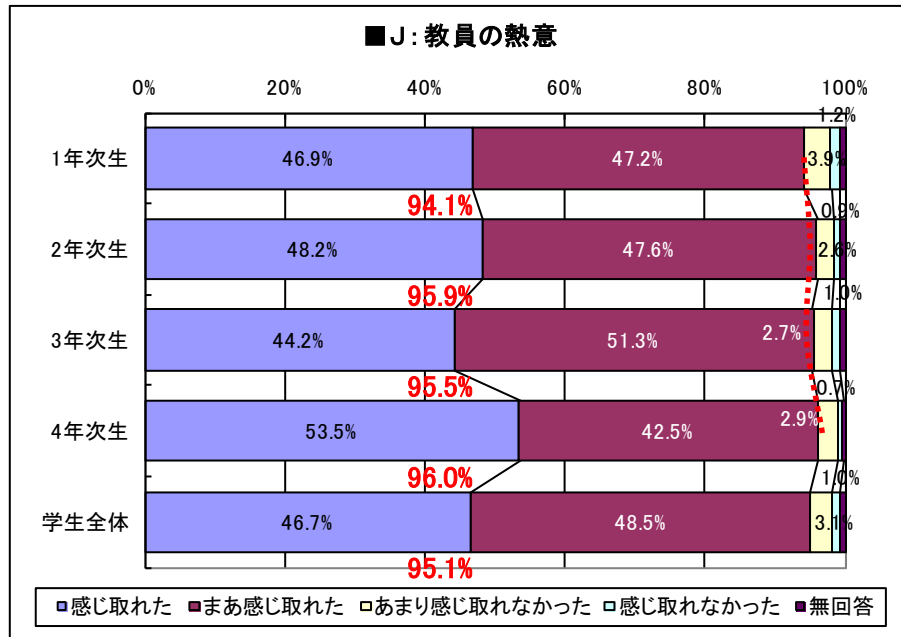
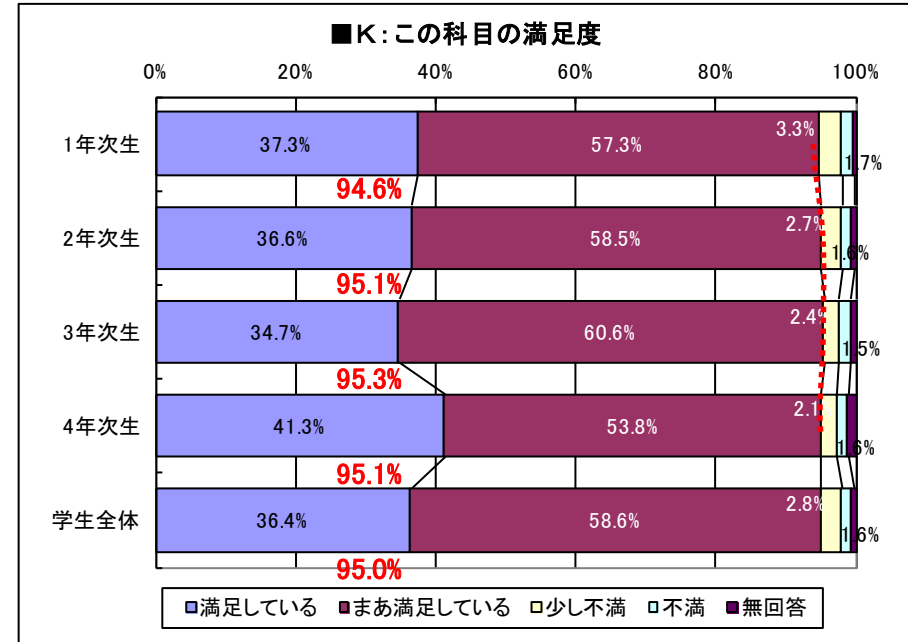
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計を学年別に比較すると、「4年次生」が79.9%と最も多く、「3年次生」が78.6%、「2年次生」が74.8%、「1年次生」が68.9%と続いており、高学年の方が学習時間が長くなる傾向が見られた。ただし、「3時間以上」だけを見ると「3年次生」が最も多かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」の肯定的意見を比較すると、「4年次生」が90.6%で最も多く、次いで、「2年次生」が90.0%、「3年次生」が88.9%、「1年次生」が84.8%と続いており、学年との相関関係は見られなかった。「4年次生」と「1年次生」との差は5.8ポイントと、それほど大きくはなかった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」の肯定的意見を比較すると、「4年次生」が95.2%で最も多く、次いで、「2年次生」が93.6%、「3年次生」が93.3%、「1年次生」が92.2%と続いており、「4年次生」と「1年次生」との差は3.0ポイントと小さかった。そして、「十分役立った」だけを見ると、「4年次生」の39.7%の多さが目立っていた。



- 「G:学習支援計画書との一致」の肯定的意見の合計は「4年次生」が97.6%、「2年次生」と「3年次生」が97.5%、「1年次生」が97.4%となっており、差は最大で0.2ポイントと非常に小さく、学年による差はほとんど見られなかった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も学年間の差が小さく、最も多い「4年次生」が95.5%であり、次いで、「2年次生」が94.4%、「3年次生」が94.2%、「1年次生」が93.2%と続いており、差は最大で2.3ポイントと小さかった。そして、「適切だった」だけを見ると、「4年次生」の50.3%が唯一5割を超えていた。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「2年次生」が60.5%と6割を超えており、次いで、「3年次生」が59.7%、「4年次生」が53.3%、「1年次生」が51.0%であり、「2年次生」と「1年次生」の差は9.5ポイントであった。そして、「有効であった」の割合は「4年次生」が23.5%で最も多く、「3年次生」が16.1%で最も少なかった。



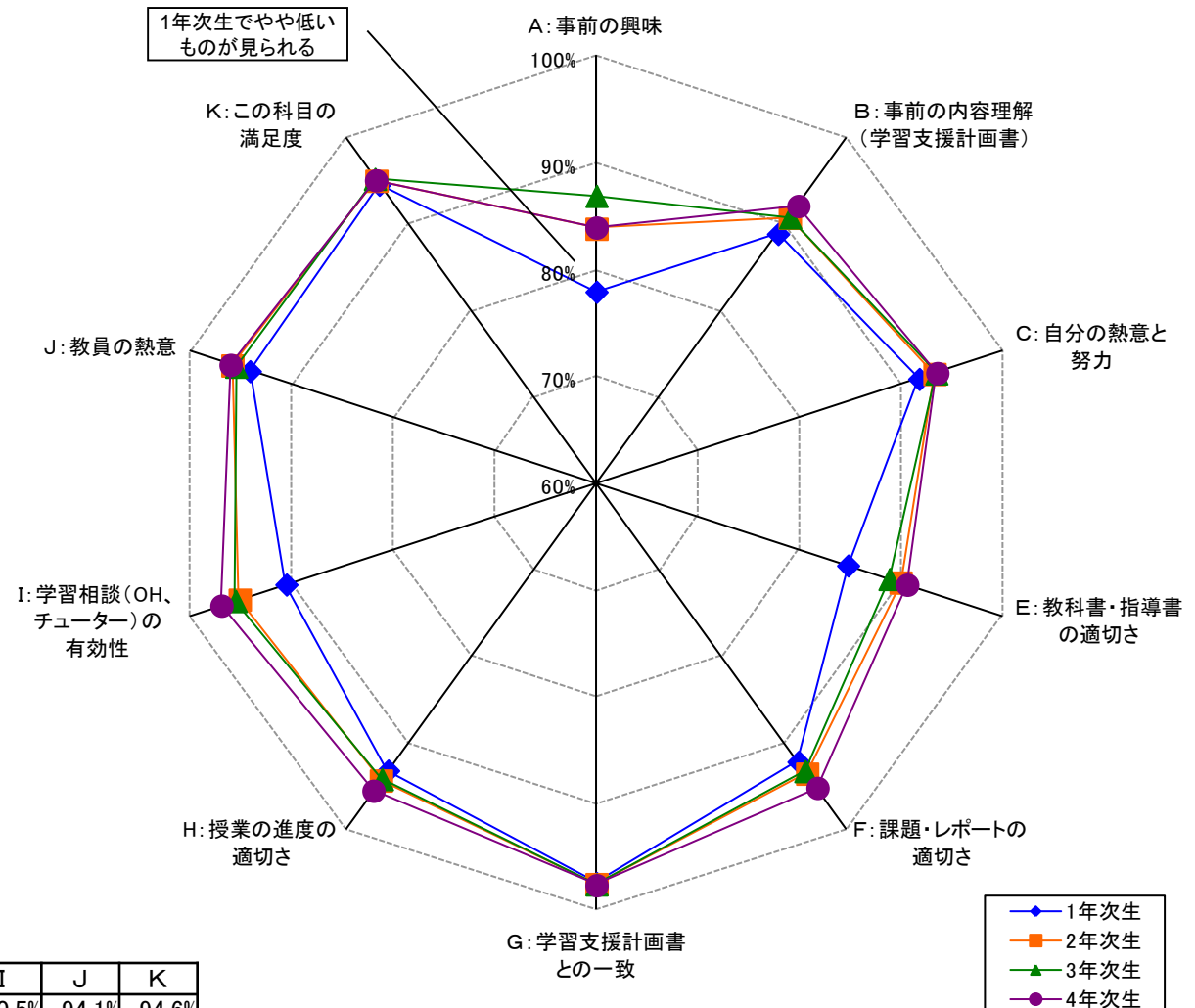
- 「J:教員の熱意」の肯定的意見の合計を比較したところ、「4年次生」が96.0%で最も多く、「2年次生」が95.9%、「3年次生」が95.5%、「1年次生」が94.1%と続いており、学年との相関関係は見られず、差は最大で1.9ポイントと小さかった。ただし、「感じ取れた」だけを見ると、「4年次生」が53.5%と高く、教員の熱意をしっかりと感じているようであった。
- 「K:この科目の満足度」の肯定的な意見の合計を比較したところ、最も多いのは「3年次生」の95.3%であった。次いで、「2年次生」と「4年次生」が95.1%、「1年次生」が94.6%であり、いずれの学年も95%前後が授業に満足しているという回答であった。学年間の差は最大で0.7ポイントと小さく、学年との相関関係は見られなかった。また、「満足している」だけを見ると、「4年次生」が41.3%と最も多かった。



<3-2> 肯定的な意見の学年別比較

- 肯定的な意見の割合を、学年別にレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的な傾向を見ると、学年間の差は非常に小さかったが、「1年次生」でやや低いものが見られた。特に「A:事前の興味」「E:教科書・指導書の適切さ」「I:学習相談の有効性」の評価が低かった。
- 一方、「4年次生」は全体的にやや高めであったが、目立って高いものは見られなかった。そして、「A:事前の興味」では「3年次生」の高さが目立っていた。

■ 学年別比較レーダーチャート



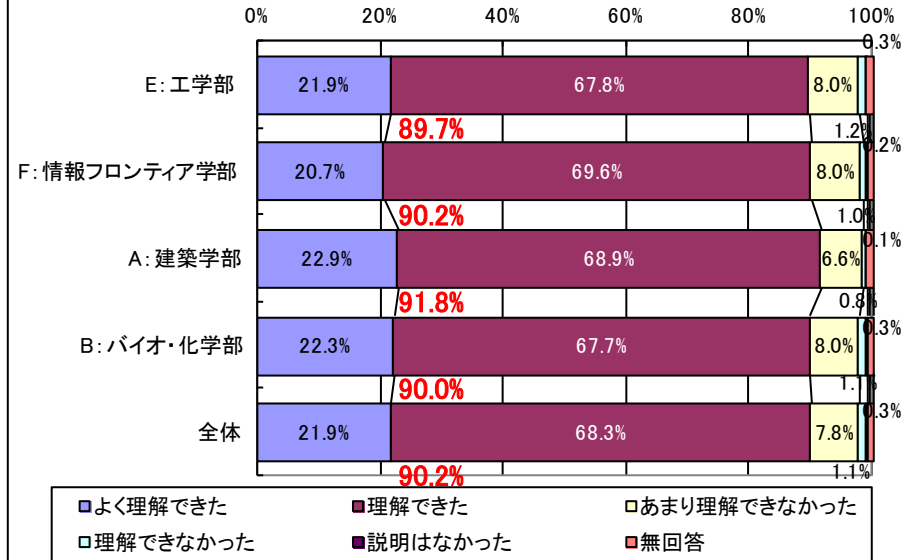
■ 学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	78.0%	88.9%	91.8%	84.8%	92.2%	97.4%	93.2%	90.5%	94.1%	94.6%
2年次生	83.9%	90.8%	93.3%	90.0%	93.6%	97.5%	94.4%	95.1%	95.9%	95.1%
3年次生	87.0%	90.9%	93.5%	88.9%	93.3%	97.5%	94.2%	95.5%	95.5%	95.3%
4年次生	84.0%	92.2%	93.6%	90.6%	95.2%	97.6%	95.5%	96.9%	96.0%	95.1%

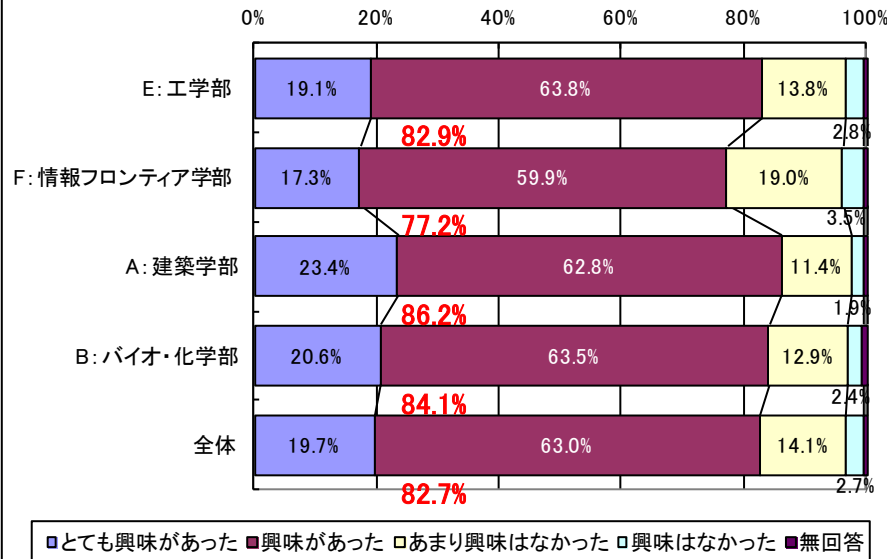
<4> 学部・学科別の分析

- 「A:事前の興味」の肯定的な意見の合計を学部別に比較すると、最も多かったのは「A:建築学部」の86.2%であった。次いで、「B:バイオ・化学部」が84.1%、「E:工学部」が82.9%、「F:情報フロンティア学部」が77.2%と続いており、「F:情報フロンティア学部」の少なさが目立っていた。そして、「A:建築学部」と「F:情報フロンティア学部」との差は9.0ポイントと、小さくはなかった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の肯定的な意見は「A:建築学部」が91.8%で最も多く、次いで、「F:情報フロンティア学部」が90.2%、「B:バイオ・化学部」が90.0%、「E:工学部」が89.7%と続いていた。「E:工学部」だけが9割を下回っていたが、学部間の差は最大でも2.1ポイントと小さく、いずれの学部の授業でも事前の内容理解は高かったと言える。
- 「C:自分の熱意と努力」も学部による差が小さく、すべての学部で肯定的な意見が9割以上であり、自己評価は非常に高かった。最も高かったのは「A:建築学部」の94.4%で最も低かったのは「E:工学部」の92.4%であり、その差は2.0ポイントと小さかった。

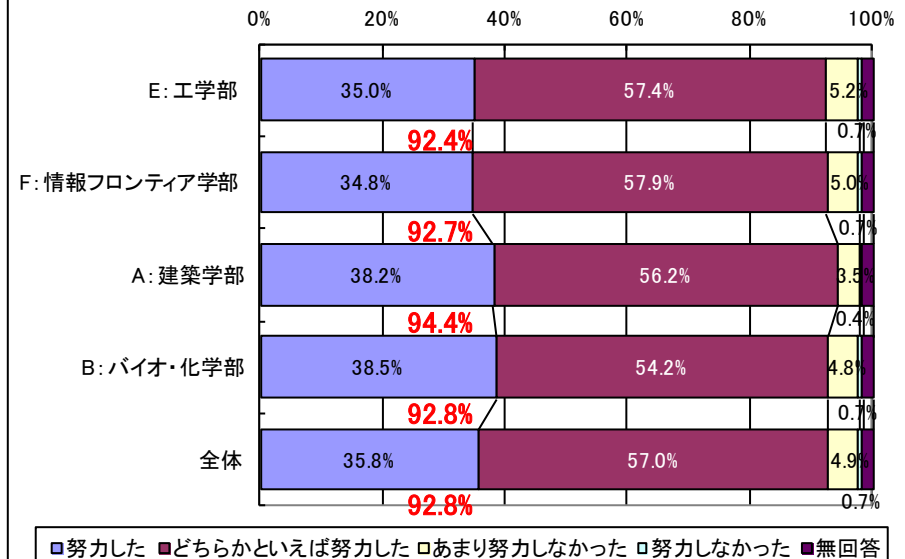
■ B:事前の内容理解(学習支援計画書)



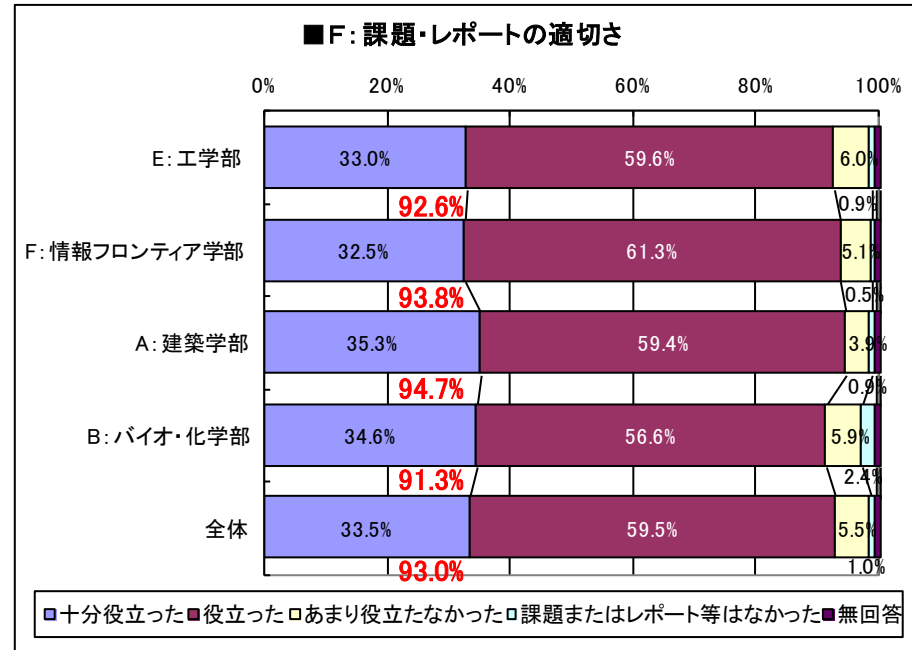
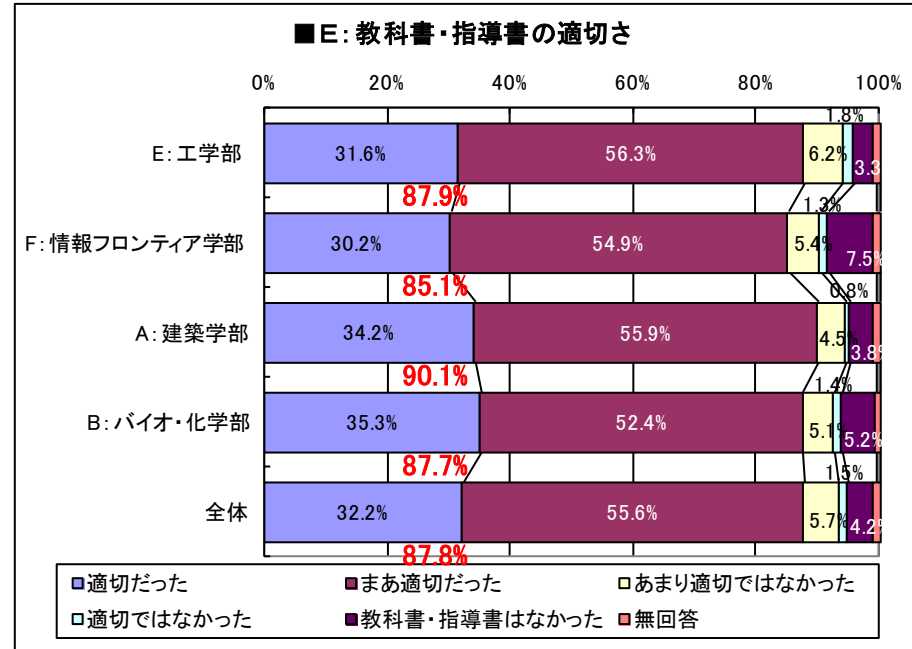
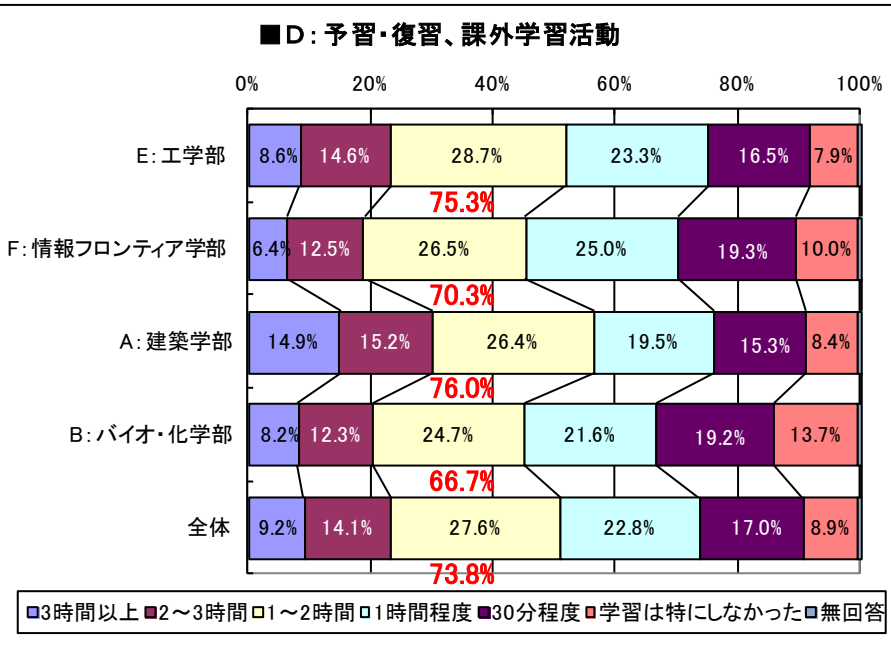
■ A:事前の興味



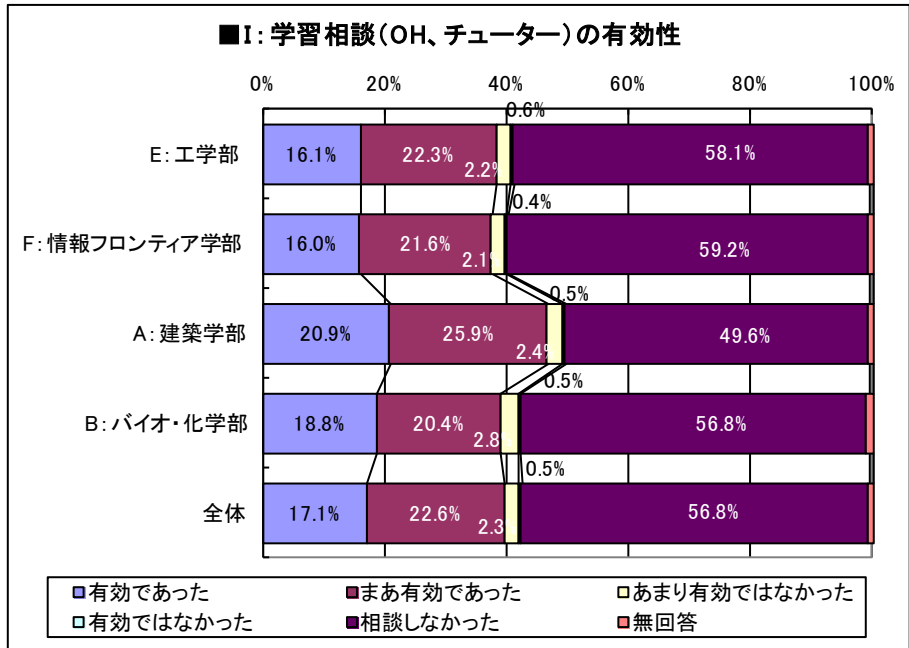
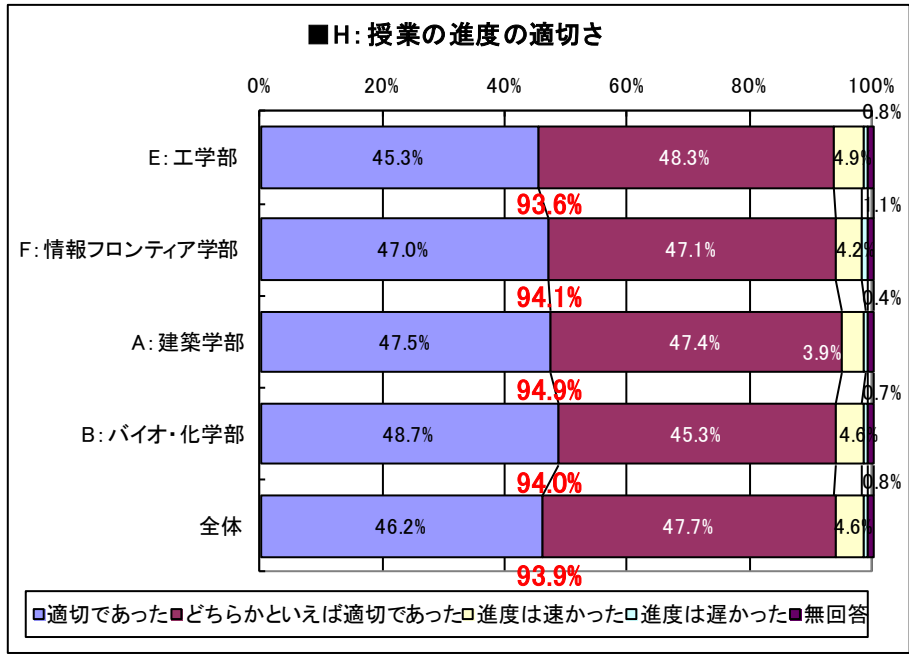
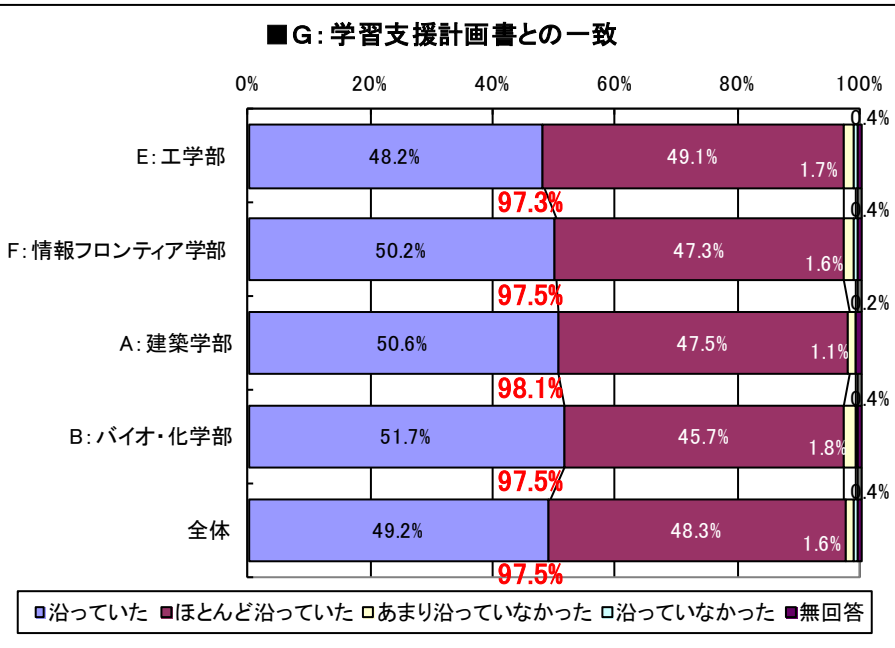
■ C:自分の熱意と努力



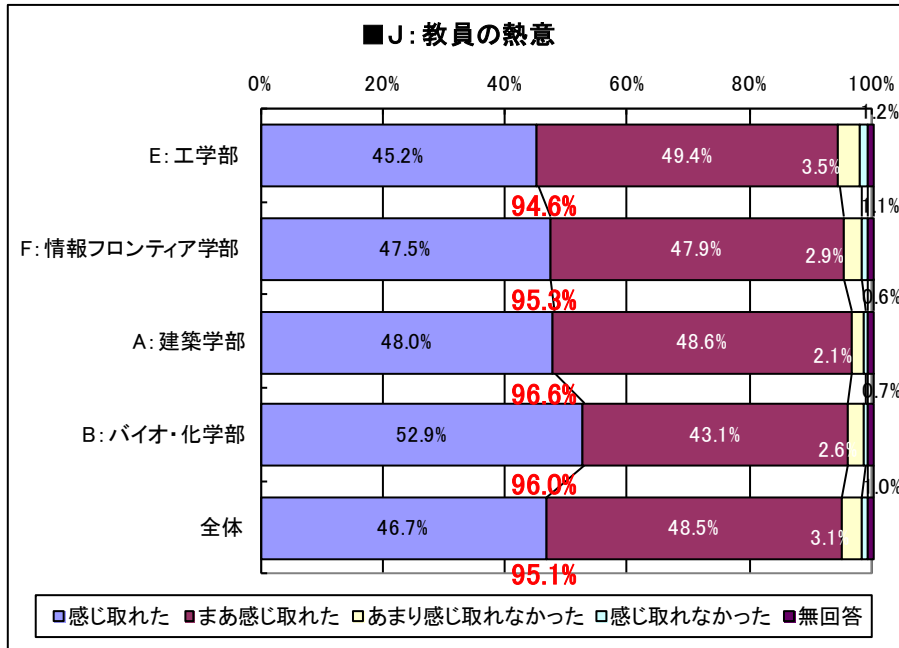
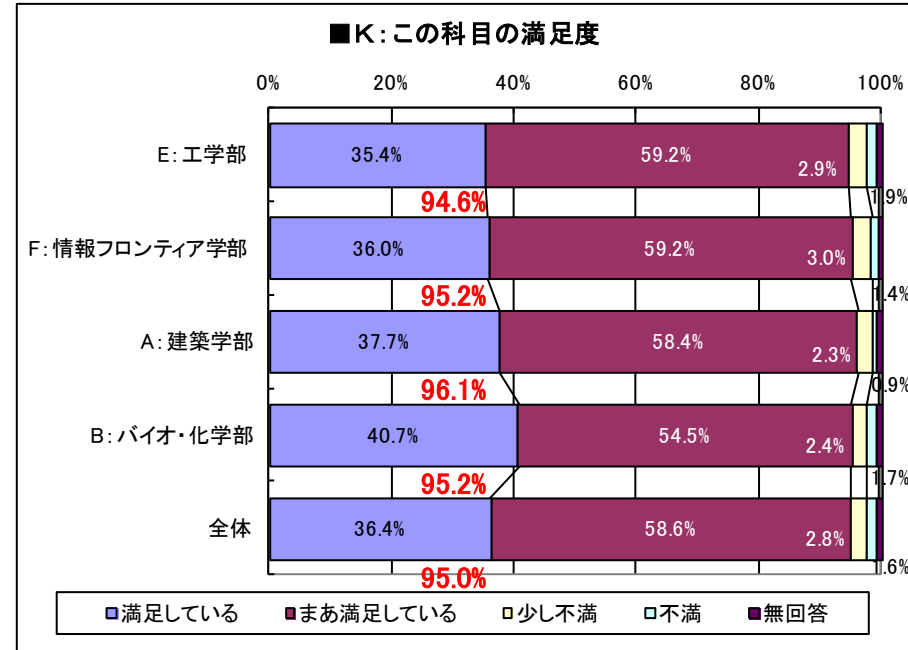
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計を学部別に比較すると、「A:建築学部」が76.0%と最も多く、次いで、「E:工学部」が75.3%、「F:情報フロンティア学部」が70.3%、「B:バイオ・化学部」が66.7%と続いており、「A:建築学部」と「B:バイオ・化学部」との差は9.3ポイントと、大きく差がっていた。また、「A:建築学部」では、「3時間以上」が14.9%と多い点が特徴的であった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」の肯定的な意見の合計を見ると、「A:建築学部」が90.1%と最も多く、次いで、「E:工学部」が87.9%、「B:バイオ・化学部」が87.7%、「F:情報フロンティア学部」が85.1%と続いており、差は最大で5.0ポイントであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」はすべての学部で肯定的な意見が9割以上であり、評価は非常に高かった。最も高かったのは「A:建築学部」の94.7%、最も低かったのは「B:バイオ・化学部」の91.3%であり、その差は3.4ポイントであった。



- 「G:学習支援計画書との一致」の評価はすべての学部で肯定的な意見が95%以上を占めており、非常に高い評価であった。最も高かったのは「A:建築学部」の98.1%であり、最も低い「E:工学部」でも肯定的な意見は97.3%であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」もすべての学部で肯定的な意見が9割を超えて高い評価であった。最も高かったのは「A:建築学部」の94.9%で、最も低かったのは「E:工学部」の93.6%であり、その差は1.3ポイントと小さかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「A:建築学部」が49.6%で他の学部比べて低さが目立っており、学習相談をよく利用しているようであった。そして、評価を見ると、否定的な意見はすべての学部で2~3%程度と少なく、学習相談を利用している学生の評価は非常に高いと言える。



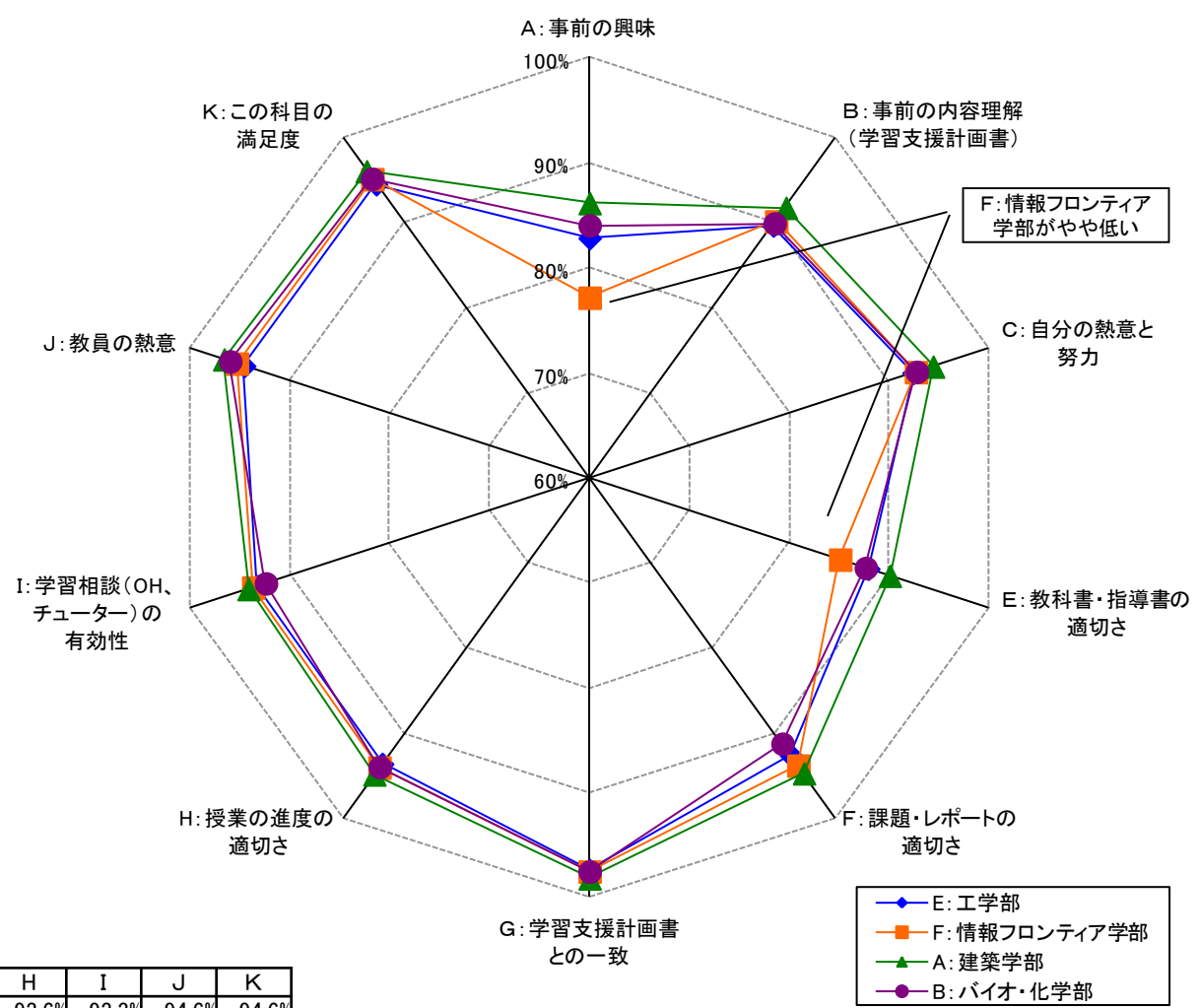
- 「J:教員の熱意」もすべての学部で肯定的な意見が9割以上であり、評価は非常に高かった。最も高かったのは「A:建築学部」の96.6%で、最も低い「E:工学部」でも94.6%であり、その差は2.0ポイントと小さかった。そして、「感じ取れた」だけを見ると「B:バイオ・化学部」の52.9%が唯一5割を超えており、学部間の差は最大で7.7ポイントであった。
- 「K:この科目の満足度」もすべての学部で肯定的な意見が9割以上であり、非常に高い満足度であった。最も満足度が高かったのは「A:建築学部」の96.1%であり、次いで、「F:情報フロンティア学部」と「B:バイオ・化学部」が95.2%、「E:工学部」が94.6%であり、差は最大で1.5ポイントであった。また、「満足している」だけを見ると、「B:バイオ・化学部」が40.7%で最も多く、最も少なかったのは「E:工学部」の35.4%であった。



- 肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的に学部による差は小さかったが、「A: 事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」でやや差が大きく、「A:建築学部」が高く、「F:情報フロンティア学部」の低さが目立っていた。
- 上記の2項目以外は学部による差が小さかったが、すべての項目で「A:建築学部」が最も高かった。

■ 学部別比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



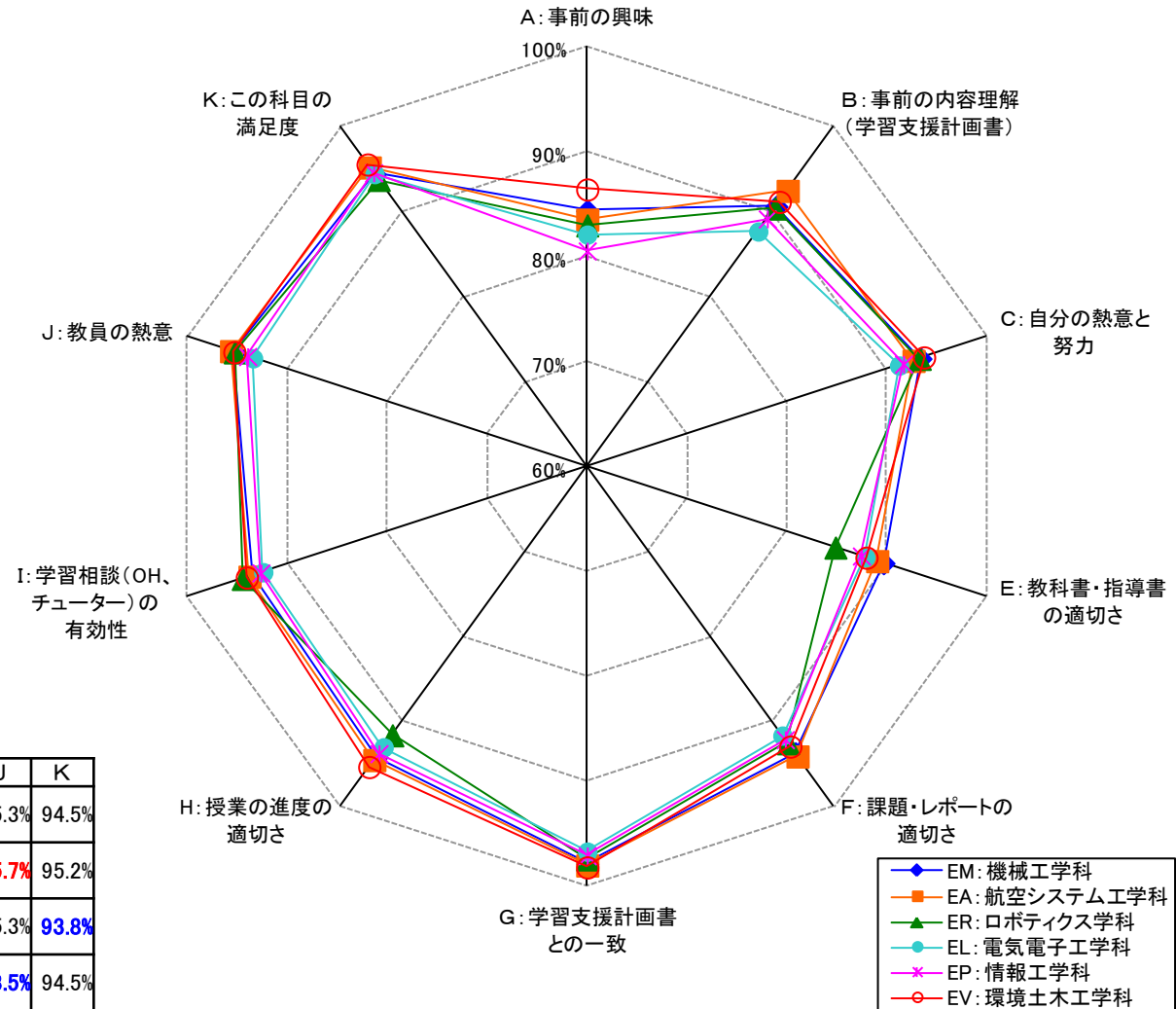
■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	82.9%	89.7%	92.4%	87.9%	92.6%	97.3%	93.6%	93.3%	94.6%	94.6%
F: 情報フロンティア学部	77.2%	90.2%	92.7%	85.1%	93.8%	97.5%	94.1%	93.7%	95.3%	95.2%
A: 建築学部	86.2%	91.8%	94.4%	90.1%	94.7%	98.1%	94.9%	94.2%	96.6%	96.1%
B: バイオ・化学部	84.1%	90.0%	92.8%	87.7%	91.3%	97.5%	94.0%	92.4%	96.0%	95.2%

<4-3> 肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部毎に分けて比較をした。
- 「工学部」では、10項目中の5項目で「EV:環境土木工学科」が最も高くなっていた。次いで、「EA:航空システム工学科」が3項目で、「EM:機械工学科」と「ER:ロボティクス学科」が各々1項目で最も高かった。ただし、いずれも差はわずかであり、目立って高いものは見られなかった。
- 一方、肯定的な意見が少なかった学科を見ると、「EL:電気電子工学科」が6項目で最も低かった。そして、「ER:ロボティクス学科」が3項目で、「EP:情報工学科」が1項目で最も低かった。ただし、いずれも目立った低さではなかった。
- 上記を見ると、肯定的な意見が多かったり、低かったりという学科はあるが、差はそれほど大きくなく、全体的に似た評価となっていた。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

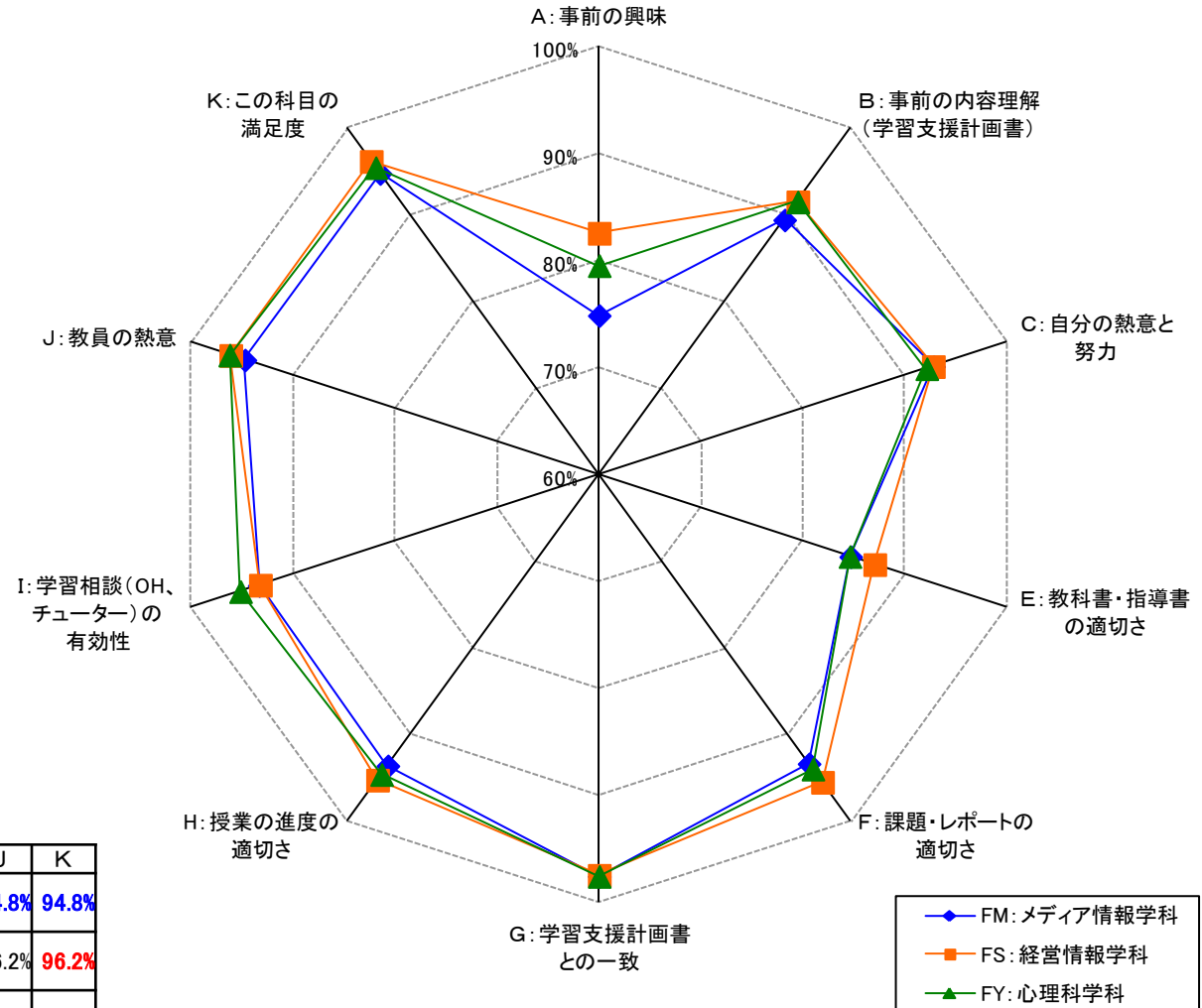


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	84.4%	90.6%	93.4%	89.7%	93.7%	97.8%	94.2%	93.5%	95.3%	94.5%
EA: 航空システム工学科	83.5%	92.5%	92.7%	89.0%	94.1%	98.0%	94.5%	93.8%	95.7%	95.2%
ER: ロボティクス学科	83.0%	90.4%	93.3%	84.9%	92.5%	97.4%	91.6%	94.5%	95.3%	93.8%
EL: 電気電子工学科	82.1%	87.7%	91.2%	87.9%	91.6%	96.6%	93.0%	92.5%	93.5%	94.5%
EP: 情報工学科	80.6%	89.2%	91.7%	87.5%	92.1%	97.0%	93.7%	92.7%	94.0%	94.6%
EV: 環境土木工学科	86.4%	91.2%	93.7%	88.0%	92.9%	98.1%	95.3%	94.1%	95.3%	95.6%

- 「情報フロンティア学部」でも、「A:事前の興味」でやや差がついたものの、他の項目では大きな差は見られなかった。
- 差はそれほど大きくないが、「FS:経営情報学科」が7項目で最も高い評価となっており、特に「A:事前の興味」の高さは目立っていた。
- 「FY:心理科学科」は4項目で最も高い評価となっていたが、いずれも目立った高さではなかった。
- 「FM:メディア情報学科」は2項目で最も高かったが、7項目で最も低い評価となっていた。「A:事前の興味」の低さは目立っていたが、他はそれほど目立った低さではなく、他の学科との差は少なかった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

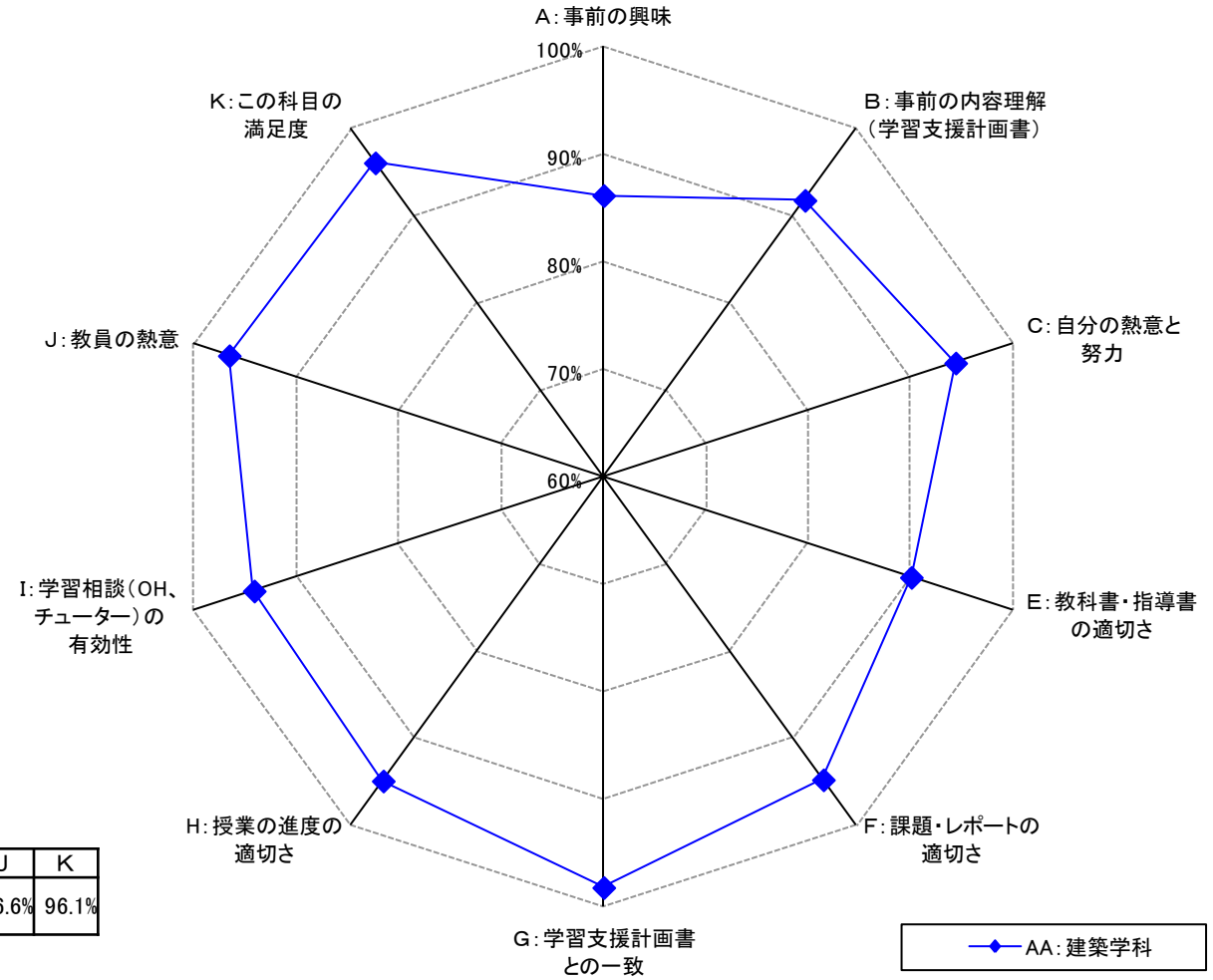


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	74.9%	89.4%	92.8%	84.7%	93.3%	97.5%	93.6%	93.4%	94.8%	94.8%
FS:経営情報学科	82.6%	91.5%	92.8%	87.0%	95.5%	97.4%	95.2%	93.3%	96.2%	96.2%
FY:心理科学科	79.6%	91.5%	92.1%	84.6%	93.9%	97.5%	94.6%	95.2%	96.3%	95.5%

- 「建築学部」は「AA:建築学科」だけなので、比較はしていない。

■ 建築学部 学科別比較レーダーチャート

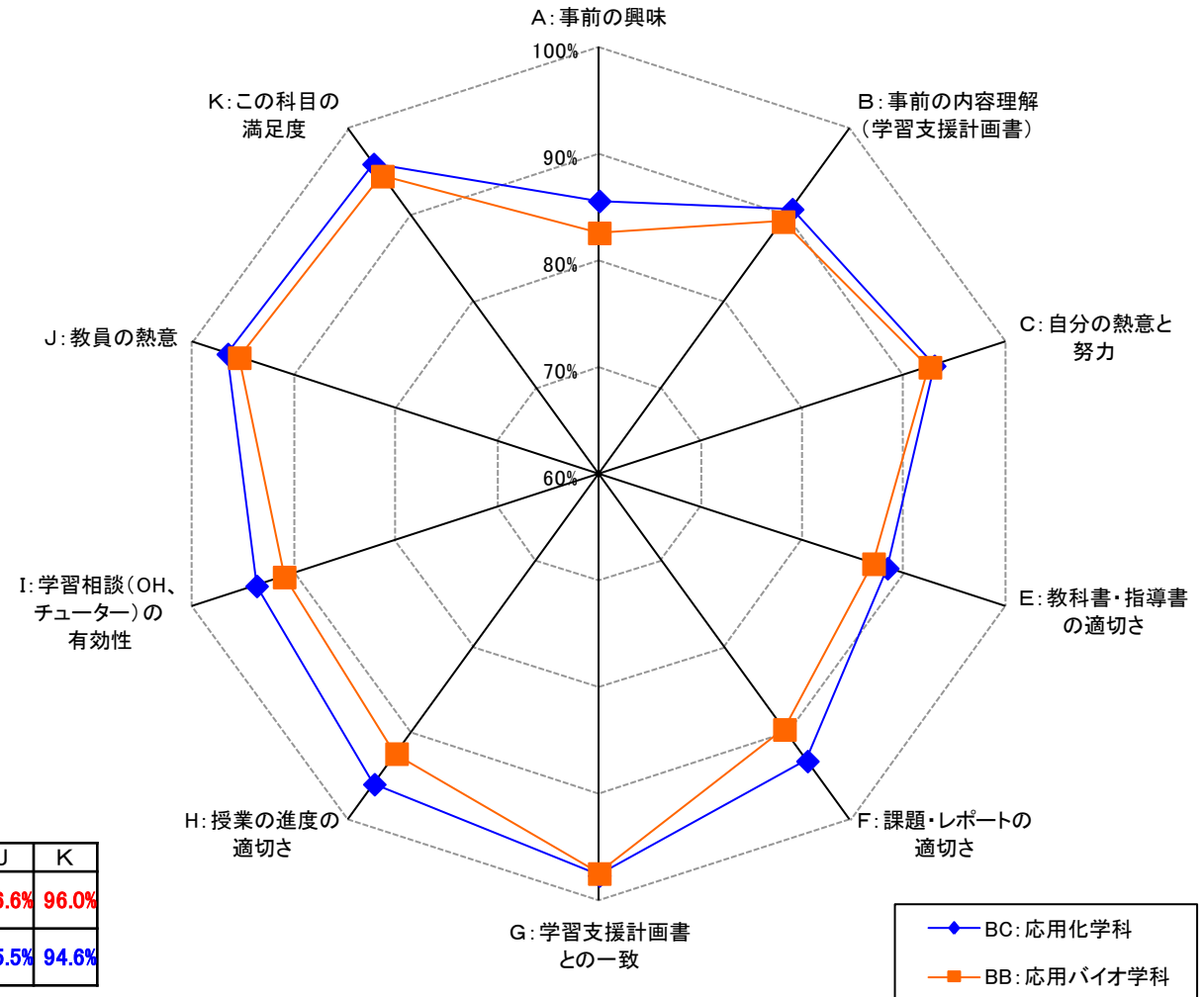


■ 建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
AA: 建築学科	86.2%	91.8%	94.4%	90.1%	94.7%	98.1%	94.9%	94.2%	96.6%	96.1%

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較であるが、すべての項目で「BC:応用化学科」の評価の方が高く、「BB:応用バイオ学科」が低かった。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



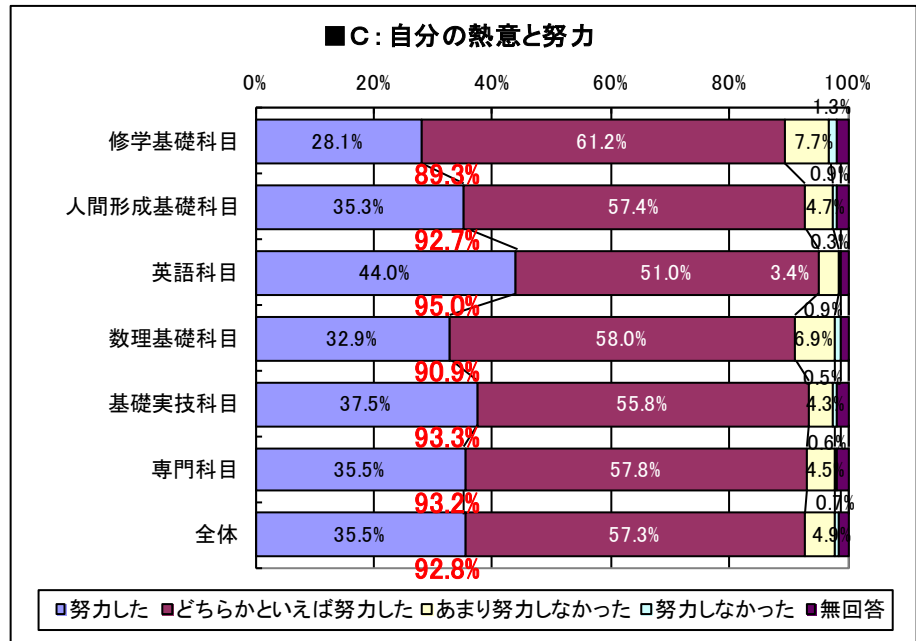
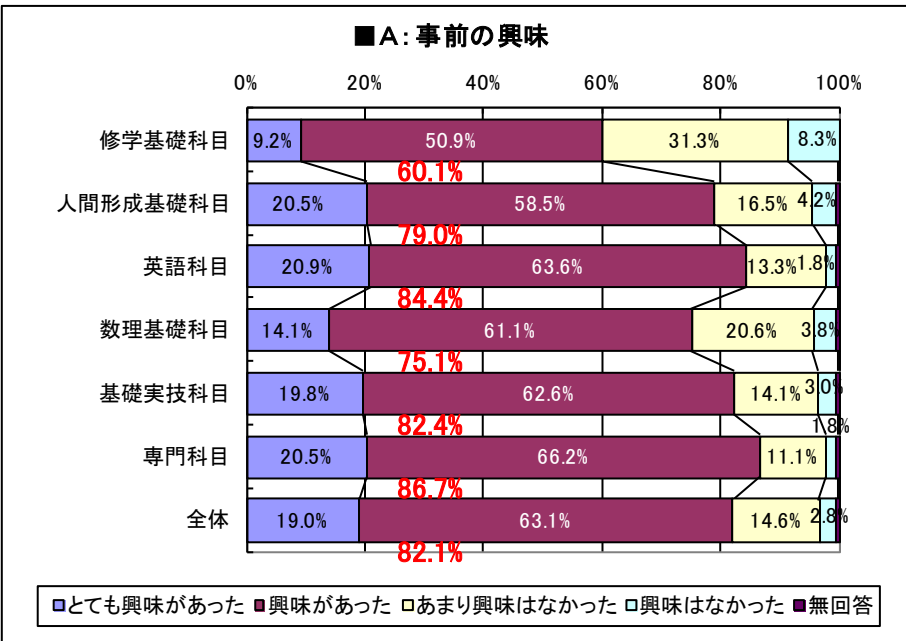
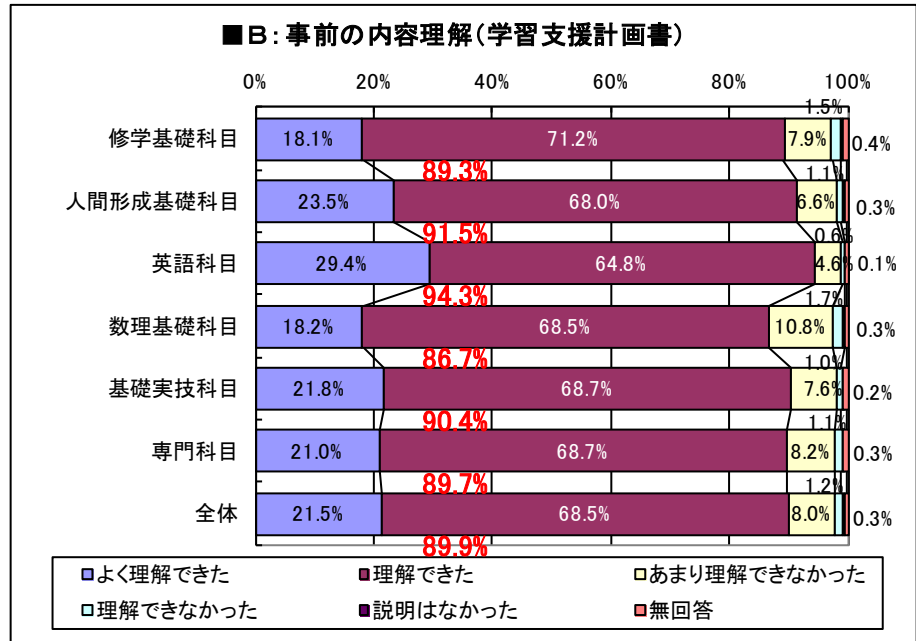
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	85.6%	90.7%	93.0%	88.4%	93.2%	97.6%	95.8%	93.7%	96.6%	96.0%
BB: 応用バイオ学科	82.6%	89.3%	92.6%	87.0%	89.5%	97.4%	92.3%	91.0%	95.5%	94.6%

<5>科目区分別の分析

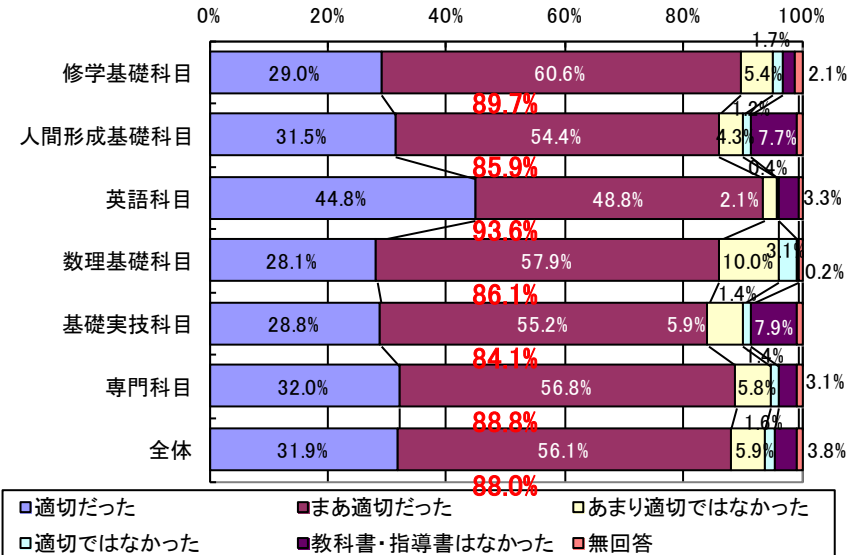
<5-1>科目区分別の比較

- 授業を6つの科目区分で分けて、その評価の違いを見た。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見の合計を見ると、「専門科目」が86.7%で最も多く、次いで、「英語科目」が84.4%、「基礎実技科目」が82.4%と続いていた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の60.1%で、「専門科目」との差は26.6ポイントであり、興味のなさが目立っていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見が最も多かったのは「英語科目」の94.3%であり、特に「よく理解できた」が29.4%と多い点が特徴的であった。次いで、「人間形成基礎科目」が91.5%、「基礎実技科目」が90.4%であった。一方、最も少なかったのは「数理基礎科目」の86.7%であった。
- 「C:自分の熱意と努力」ではほとんどの科目区分で肯定的な意見が9割以上であり、非常に積極的な様子うかがえた。中でも最も多かったのは「英語科目」の95.0%であり、「努力した」が44.0%を占めている点も特徴的であった。一方、最も少なかった「修学基礎科目」でも肯定的な意見は89.3%で、決して低い数値ではなかった。

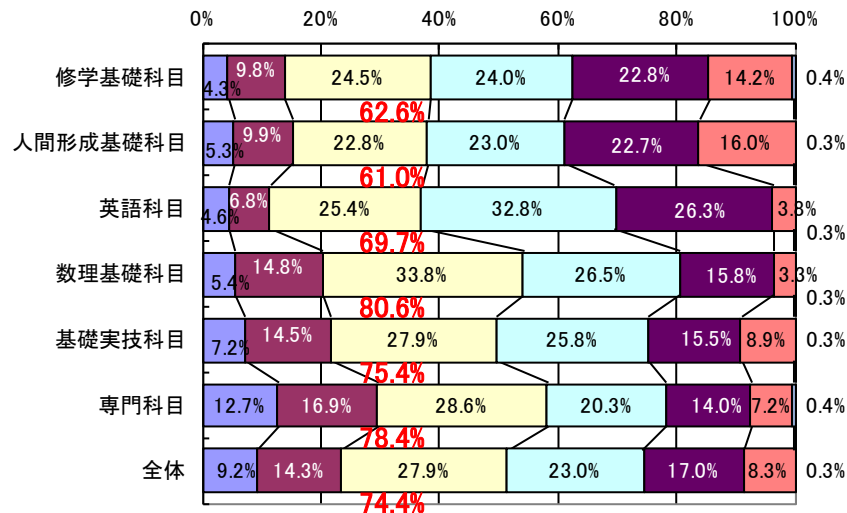


- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計で比較すると、「数理基礎科目」が80.6%で最も多く、次いで、「専門科目」が78.4%、「基礎実技科目」が75.4%と続いていた。一方、最も少なかったのは「人間形成基礎科目」の61.0%であり、「数理基礎科目」との差は19.6ポイントと大きく、学習時間は科目によって大きな差があることが分かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「英語科目」の93.6%で、ここでも「適切だった」が44.8%と非常に多い点が特徴的であった。次いで、「修学基礎科目」が89.7%、「専門科目」が88.8%と続いていた。一方、最も少なかったのは「基礎実技科目」の84.1%で、「英語科目」との差は9.5ポイントであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」はすべての科目区分で肯定的な意見が9割を超えており、非常に高い評価であった。最も高かったのは「英語科目」であり、ここでも「十分役立った」が43.4%と多い点の特徴的であった。次いで、「基礎実技科目」が93.4%、「人間形成基礎科目」と「専門科目」が93.1%と続いており、最も少ない「修学基礎科目」でも90.2%であった。

■E:教科書・指導書の適切さ

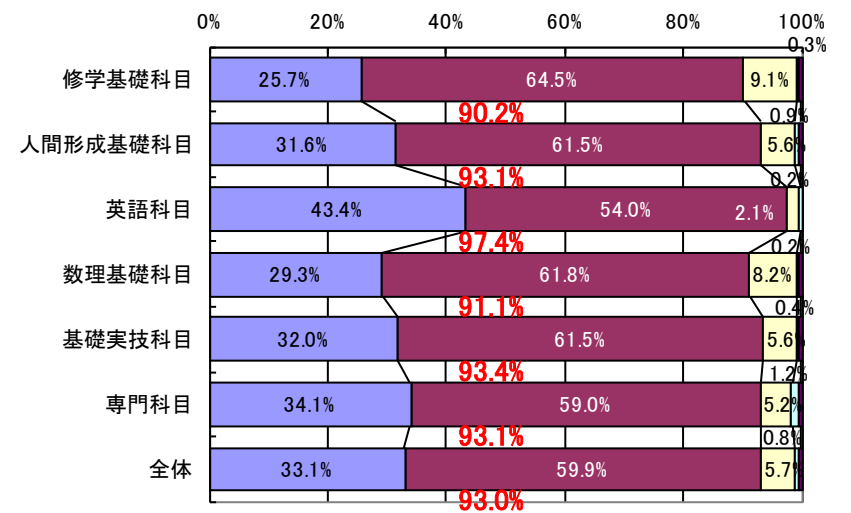


■D:予習・復習、課外学習活動



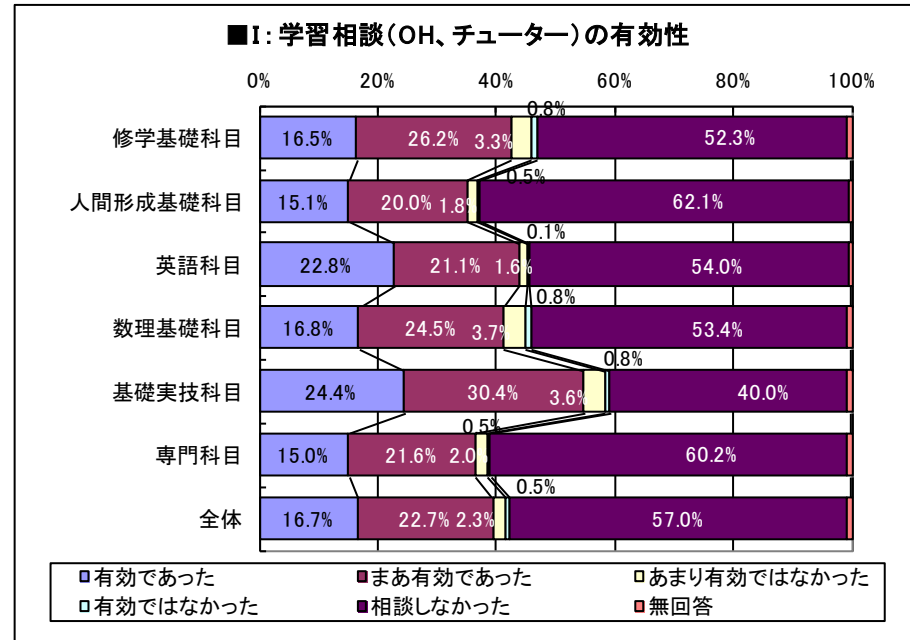
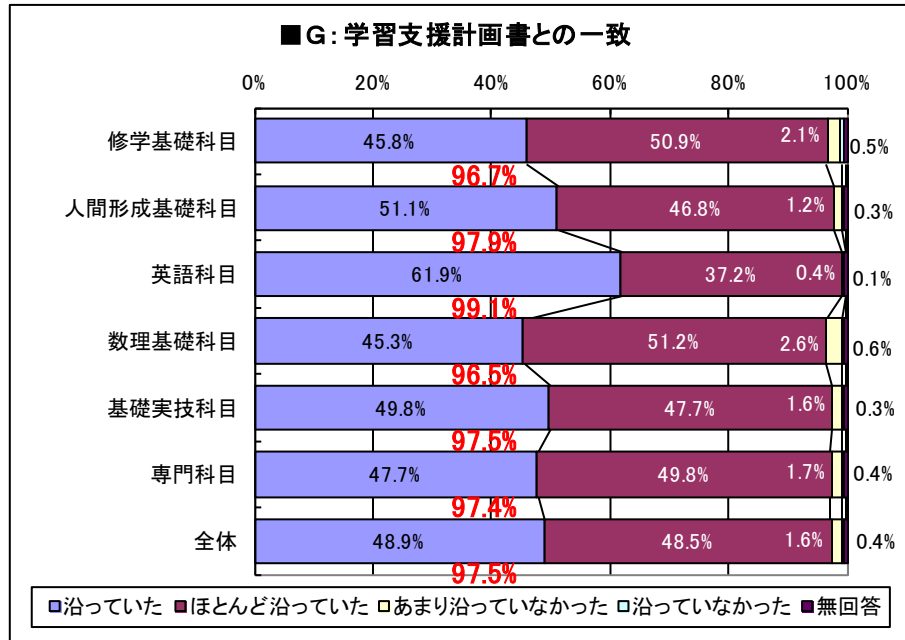
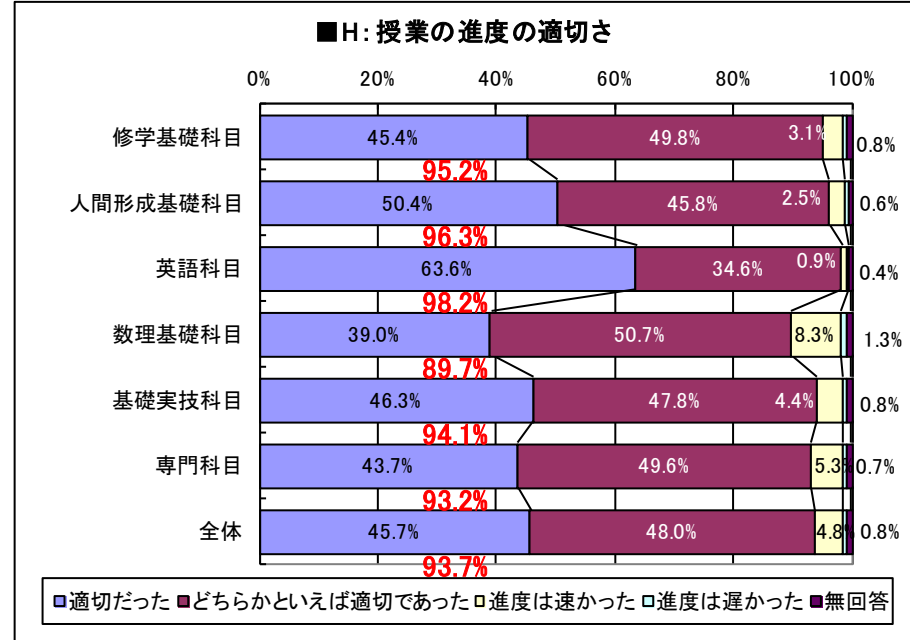
■3時間以上 ■2~3時間 □1~2時間 □1時間程度 ■30分程度 ■学習は特にしなかった □無回答

■F:課題・レポートの適切さ

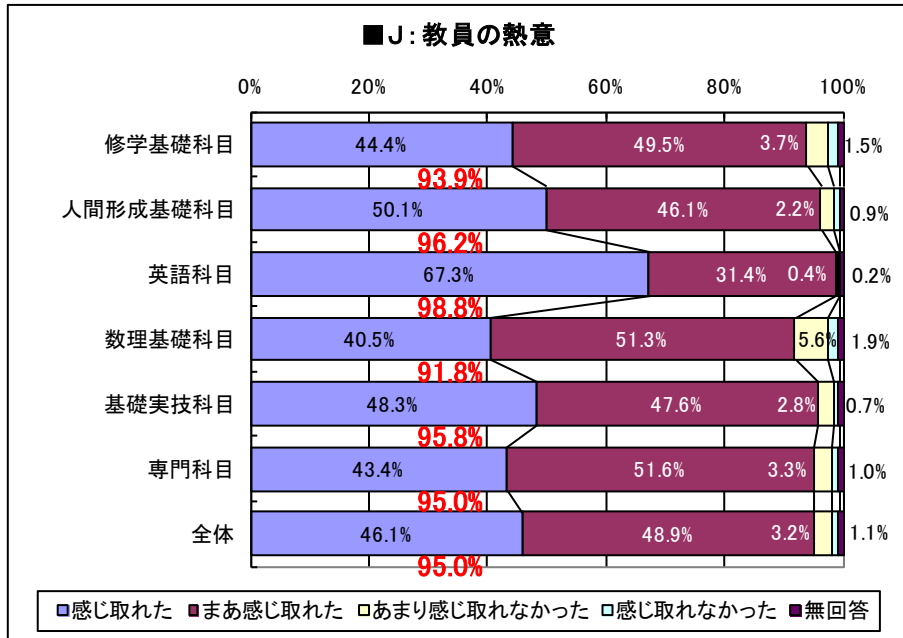
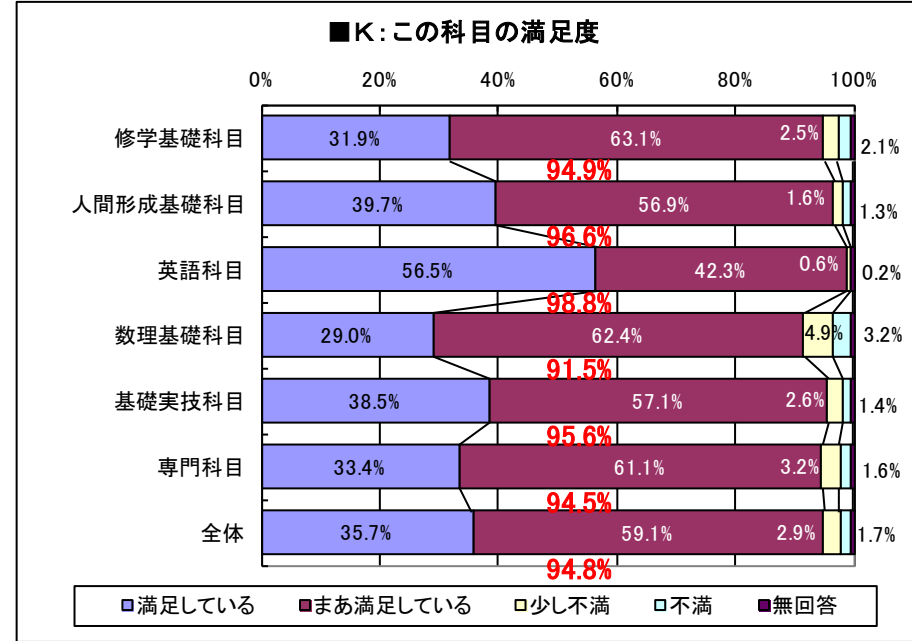


■十分役立った ■役立った □あまり役立たなかった □課題またはレポート等はなかった ■無回答

- 「G:学習支援計画書との一致」では、すべての科目区分で肯定的な意見が95%以上であり、非常に高い評価であった。最も評価が高かったのは「英語科目」の99.1%であり、「沿っていた」が61.9%を占めていた。次に、「人間形成基礎科目」が97.9%、「基礎実技科目」が97.5%と続いており、最も低い「修学基礎科目」でも96.7%であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全体的に評価は高かった。最も高かったのは「英語科目」の98.2%で、ここでも「適切だった」が63.6%と非常に多い点特徴的であった。次いで、「人間形成基礎科目」が96.3%、「修学基礎科目」が95.2%と続き、最も低い「数理基礎科目」は89.7%であった。
- 「I:学習相談の有効性」で「相談しなかった」の割合が最も少なかったのは「基礎実技科目」の40.0%であった。一方、最も多かったのは「人間形成基礎科目」の62.1%で、科目区分によって学習相談の利用率が大きく異なることが分かった。そして、利用者の内容評価を見ると、否定的な意見はわずかであり、評価は非常に高かった。

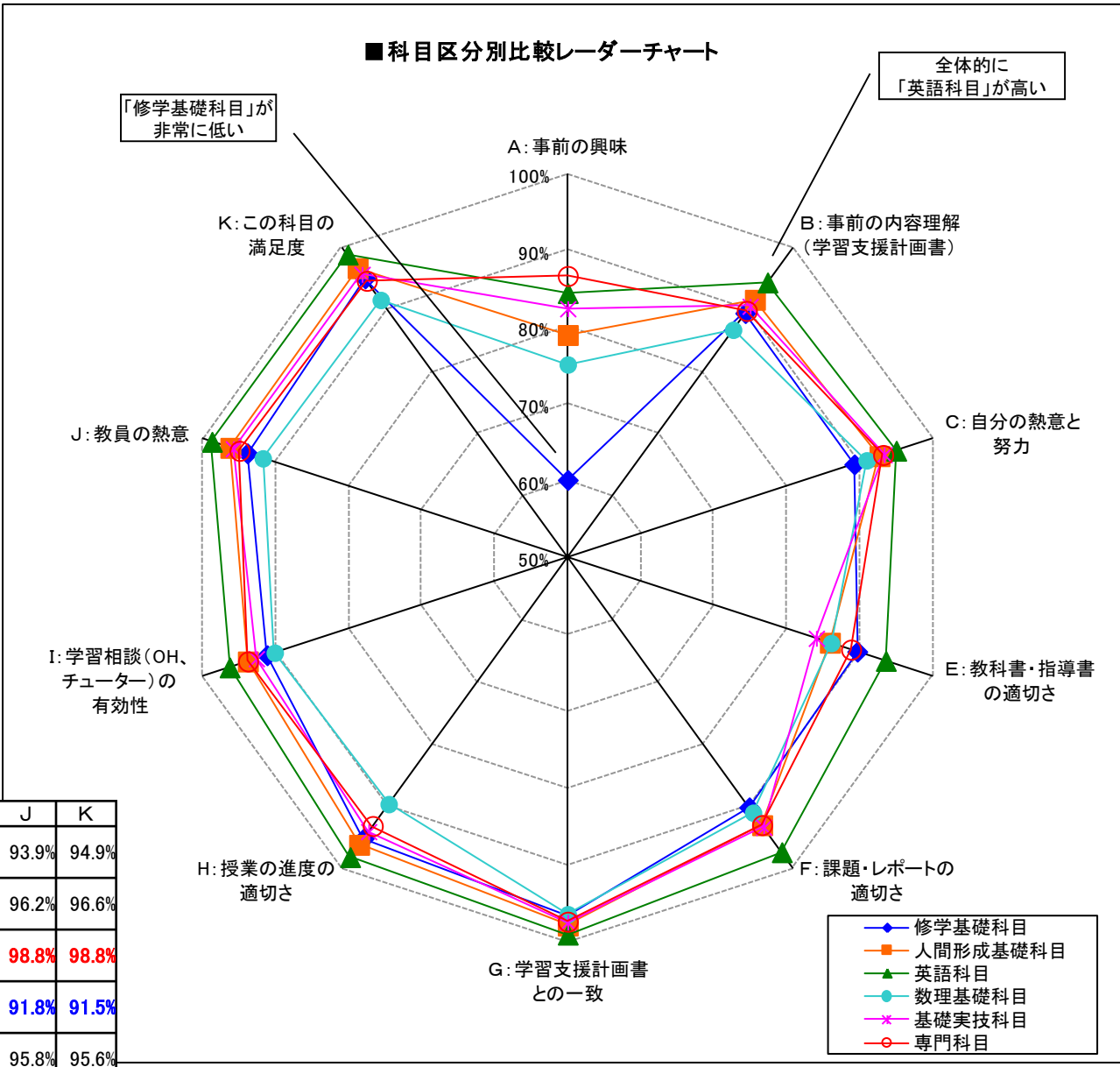


- 「J:教員の熱意」も全体的に肯定的な意見が多く、すべての科目区分で肯定的な意見が9割以上を占めていた。最も評価が高かったのは「英語科目」の98.8%であり、「感じ取れた」が67.3%と非常に多く、教員の熱意がしっかりと伝わっているようであった。次いで、「人間形成基礎科目」が96.2%、「基礎実技科目」が95.8%であった。一方、最も評価が低かったのは「数理基礎科目」の91.8%であったが、これも評価としては非常に高いと言える。
- 「K:この科目の満足度」もすべての科目区分で9割以上が肯定的な意見であり、全体的に満足度は高いと言える。最も満足度が高かったのは「英語科目」の98.8%であり、ほとんどの学生が満足しているようであった。特に「満足している」が56.5%と半数以上を占めていた。次いで、「人間形成基礎科目」が96.6%、「基礎実技科目」が95.6%、「修学基礎科目」が94.9%と続いていた。最も満足度が低かったのは「数理基礎科目」の91.5%であるが、これも非常に高いものであり、「英語科目」との差は7.3ポイントであった。



<5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートで比較した。
- 全体で目についたのは「A:事前の興味」での「修学基礎科目」の低さであり、他の項目では見られない差であった。
- 科目区分では10項目中の9項目で「英語科目」が最も高くなっており、唯一、「A:事前の興味」で「専門科目」を下回っていた。
- 一方、全体的に肯定的な意見が少ない科目区分は見られなかったが、「数理基礎科目」で6項目、「修学基礎科目」で3項目、「基礎実技科目」で1項目が最も低くなっていた。ただし、いずれも差はわずかであり、目立って低いというものではなかった。



■科目の評価比較

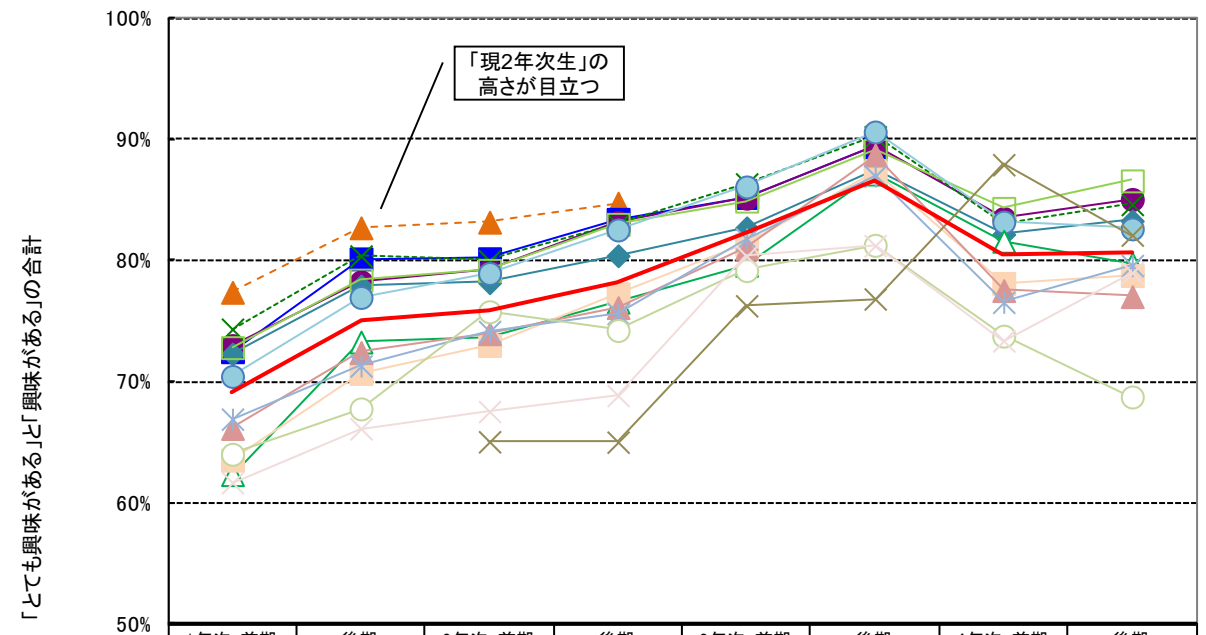
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	60.1%	89.3%	89.3%	89.7%	90.2%	96.7%	95.2%	91.2%	93.9%	94.9%
人間形成基礎科目	79.0%	91.5%	92.7%	85.9%	93.1%	97.9%	96.3%	93.8%	96.2%	96.6%
英語科目	84.4%	94.3%	95.0%	93.6%	97.4%	99.1%	98.2%	96.3%	98.8%	98.8%
数理基礎科目	75.1%	86.7%	90.9%	86.1%	91.1%	96.5%	89.7%	90.1%	91.8%	91.5%
基礎実技科目	82.4%	90.4%	93.3%	84.1%	93.4%	97.5%	94.1%	92.7%	95.8%	95.6%
専門科目	86.7%	89.7%	93.2%	88.8%	93.1%	97.4%	93.2%	93.8%	95.0%	94.5%

<6> 同一学生群の分析

<6-1>同一学生群の変化に関する分析

- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのような意識変化をしているのかを確認した。
- 学期は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制となったため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後期」として集計し、「冬学期」のデータは除外した。
- 「A:事前の興味」に関して、これまでの全体傾向である「全体平均」を見ると、「1年次-前期」から「3年次-後期」にかけて肯定的な意見が増加しており、授業に対する興味が徐々に増す傾向が見られた。その後、「4年次-前期」にかけて低下し、「4年次-後期」まで横這いとなって卒業に至っていた。
- これまでの学生群を見ると「H26卒業生」の前後で傾向が変わっている様子が見られた。「H25卒業生」までは、「1年次-前期」の肯定的な意見が6割台であったが、「H26卒業生」以降は7割台となっていた。そして、「1年次-後期」以降も同じような差を持って変化をしており、「H26卒業生」以降の学生群の興味の強さがうかがえた。
- 特に高さが目立っていたのは「現2年次生」であり、「1年次-前期」から「2年次-後期」にかけて、これまでで最も高い数値となっており、今後の動きが気になる学生群と言える。
- 上記の「現2年次生」も含めて、「現3年次生」「H29卒業生」など、ここ数年の学生群の授業に対する興味が、更に強くなっているようであった。

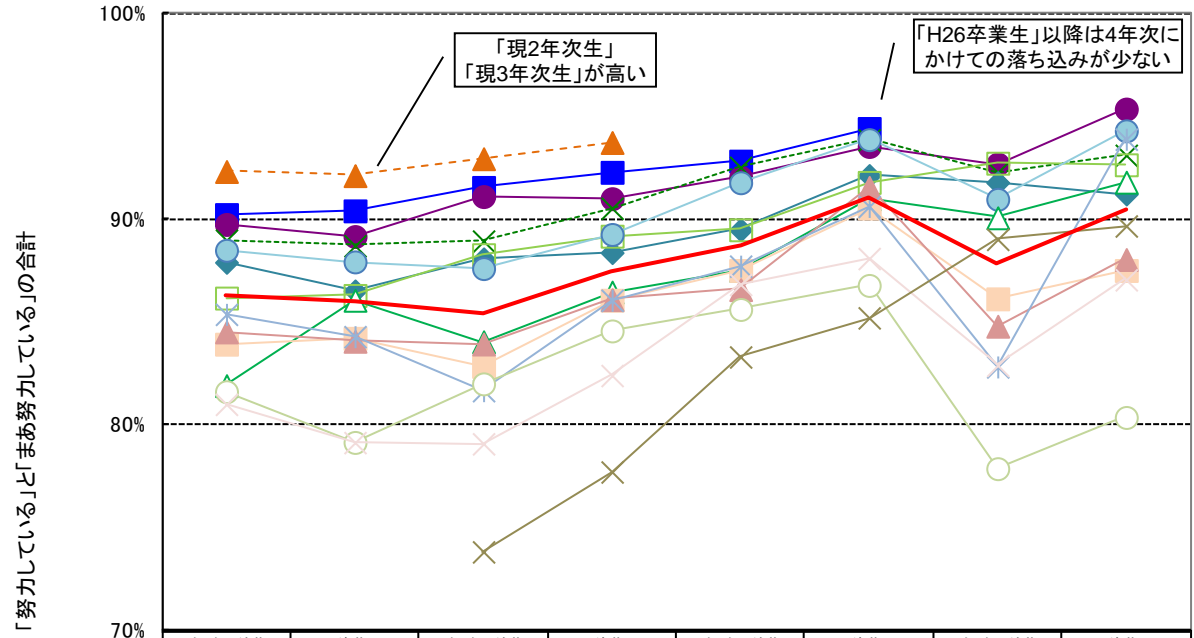
■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	77.4%	82.7%	83.2%	84.7%				
—■— 現3年次生	72.5%	80.1%	80.2%	83.4%	85.2%	89.4%		
—●— 現4年次生	73.0%	78.2%	79.2%	83.1%	85.2%	89.5%	83.5%	85.0%
- - - × - - - H29卒業生	74.3%	80.4%	80.0%	83.0%	86.3%	90.2%	83.0%	84.6%
—◆— H28卒業生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%	82.2%	83.3%
—□— H27卒業生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
—○— H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
—△— H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
—■— H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
—▲— H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
—*— H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
—○— H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
—×— H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
—×— H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
—■— 全体平均	69.0%	75.1%	75.9%	78.1%	82.3%	86.6%	80.4%	80.6%

- 「C:自分の熱意と努力」に関して、「全体平均」を見たところ、「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてわずかに低下し、その後はゆるやかな増加傾向となり、「3年次-後期」で熱意と努力が最も高くなっていた。その後、「4年次-前期」にかけて低下し、「4年次-後期」に再び上昇して卒業に至っていた。
- 全体的に変化の幅は小さく、肯定的な意見は常に85%以上であり、大きな落ち込みは見られなかった。
- 学生群別の特徴を見ると、前項の「A:事前の興味」と同様に、「H26卒業生」以降の学生群の高さが目立っていた。特に「3年次-後期」以降の落ち込みが少なく、4年間を通して熱意と努力が継続していると言える。
- 高さが目立っていたのは「現2年次生」「現3年次生」「現4年次生」で、特に「現2年次生」のこれまでの2年間は継続的に過去最高となっており、「現4年次生」の卒業直前の熱意と努力は全体を通して過去最高となっていた。

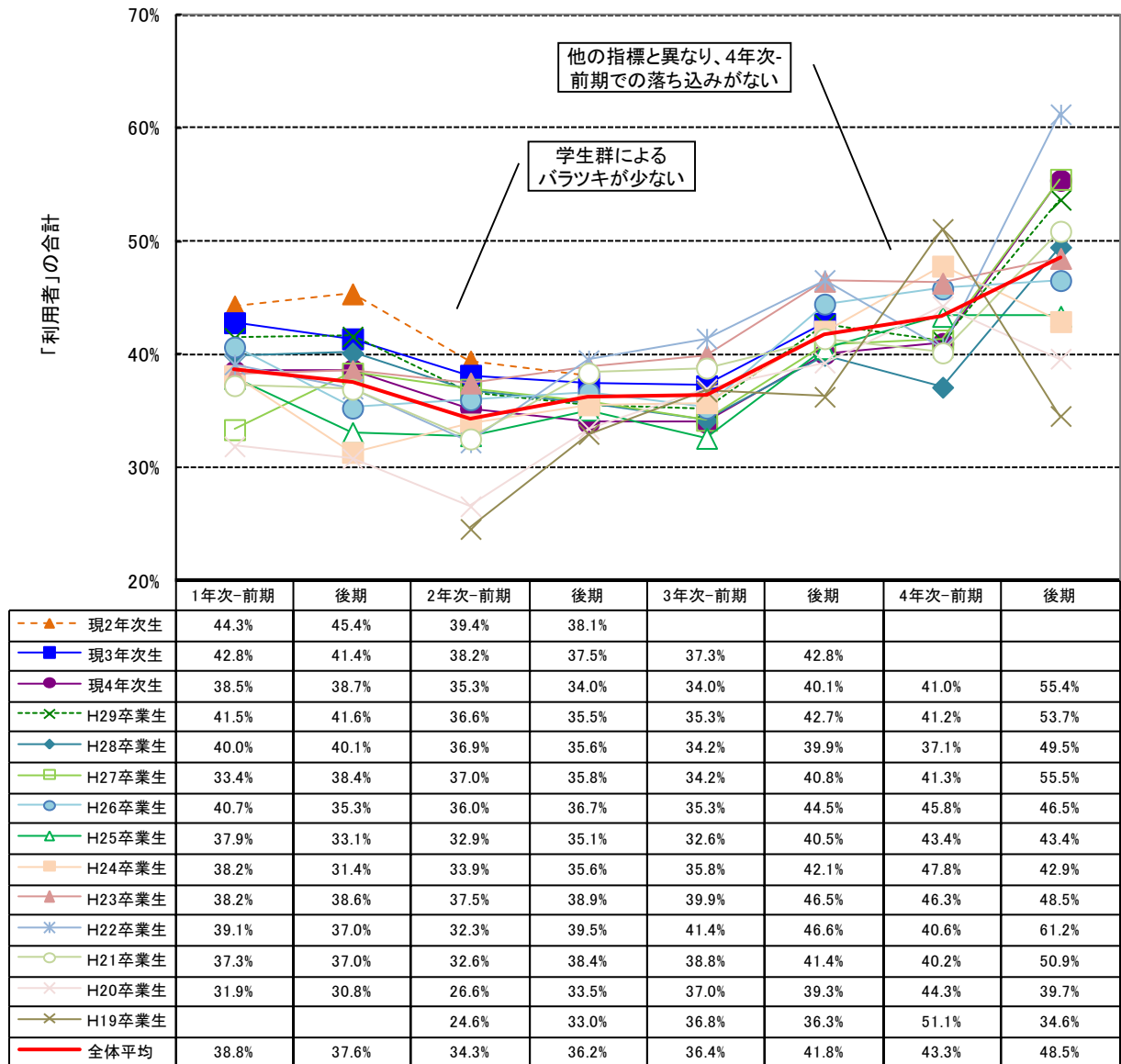
■ 学年毎・学期毎の「C:自分の熱意と努力」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	92.3%	92.1%	92.9%	93.7%				
---■--- 現3年次生	90.2%	90.4%	91.5%	92.3%	92.8%	94.4%		
---●--- 現4年次生	89.7%	89.1%	91.1%	91.0%	92.0%	93.5%	92.7%	95.3%
---×--- H29卒業生	89.0%	88.7%	88.9%	90.5%	92.5%	93.8%	92.3%	93.1%
---◆--- H28卒業生	87.9%	86.5%	88.1%	88.4%	89.5%	92.1%	91.8%	91.2%
---□--- H27卒業生	86.2%	86.3%	88.3%	89.2%	89.5%	91.8%	92.7%	92.6%
---○--- H26卒業生	88.5%	87.9%	87.6%	89.3%	91.8%	93.9%	91.0%	94.3%
---△--- H25卒業生	81.9%	86.1%	84.0%	86.5%	87.5%	91.0%	90.1%	91.8%
---□--- H24卒業生	83.9%	84.2%	82.8%	86.1%	87.5%	90.5%	86.1%	87.5%
---▲--- H23卒業生	84.5%	84.1%	83.9%	86.1%	86.6%	91.5%	84.8%	88.0%
---*--- H22卒業生	85.4%	84.3%	81.7%	86.0%	87.7%	90.6%	82.8%	93.9%
---○--- H21卒業生	81.6%	79.1%	82.0%	84.6%	85.6%	86.8%	77.9%	80.4%
---×--- H20卒業生	81.0%	79.1%	79.1%	82.4%	86.8%	88.1%	82.9%	87.0%
---×--- H19卒業生			73.8%	77.7%	83.3%	85.2%	89.0%	89.7%
---●--- 全体平均	86.3%	86.0%	85.4%	87.4%	88.7%	91.0%	87.8%	90.4%

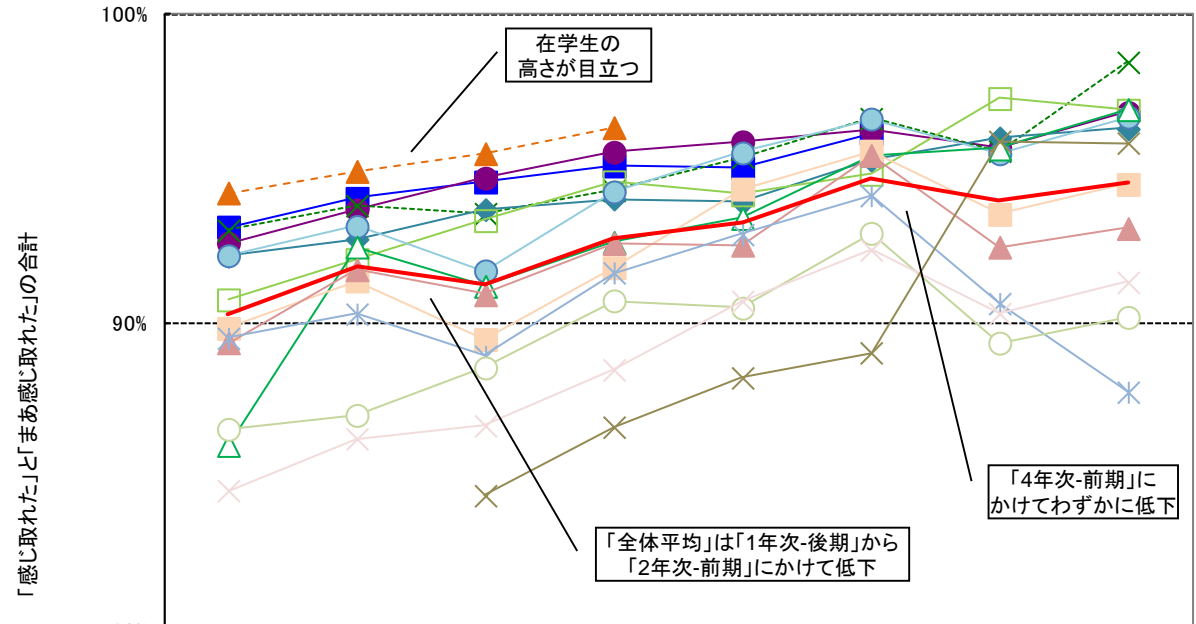
- 「I:学習相談の有効性」では、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 「全体平均」を見たところ、利用者割合は「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけてわずかに減少し、その後は「4年次-後期」にかけてゆるやかに増加して卒業に至るという傾向が見られ、他の指標のように「4年次-前期」での落ち込みが見られず、変動の幅も小さかった。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標よりも学生群によるバラツキが少なく、「H26卒業生」の前後での差も少なかった。

■ 学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による
「学習相談利用者割合」の変化 同一学生群の変化



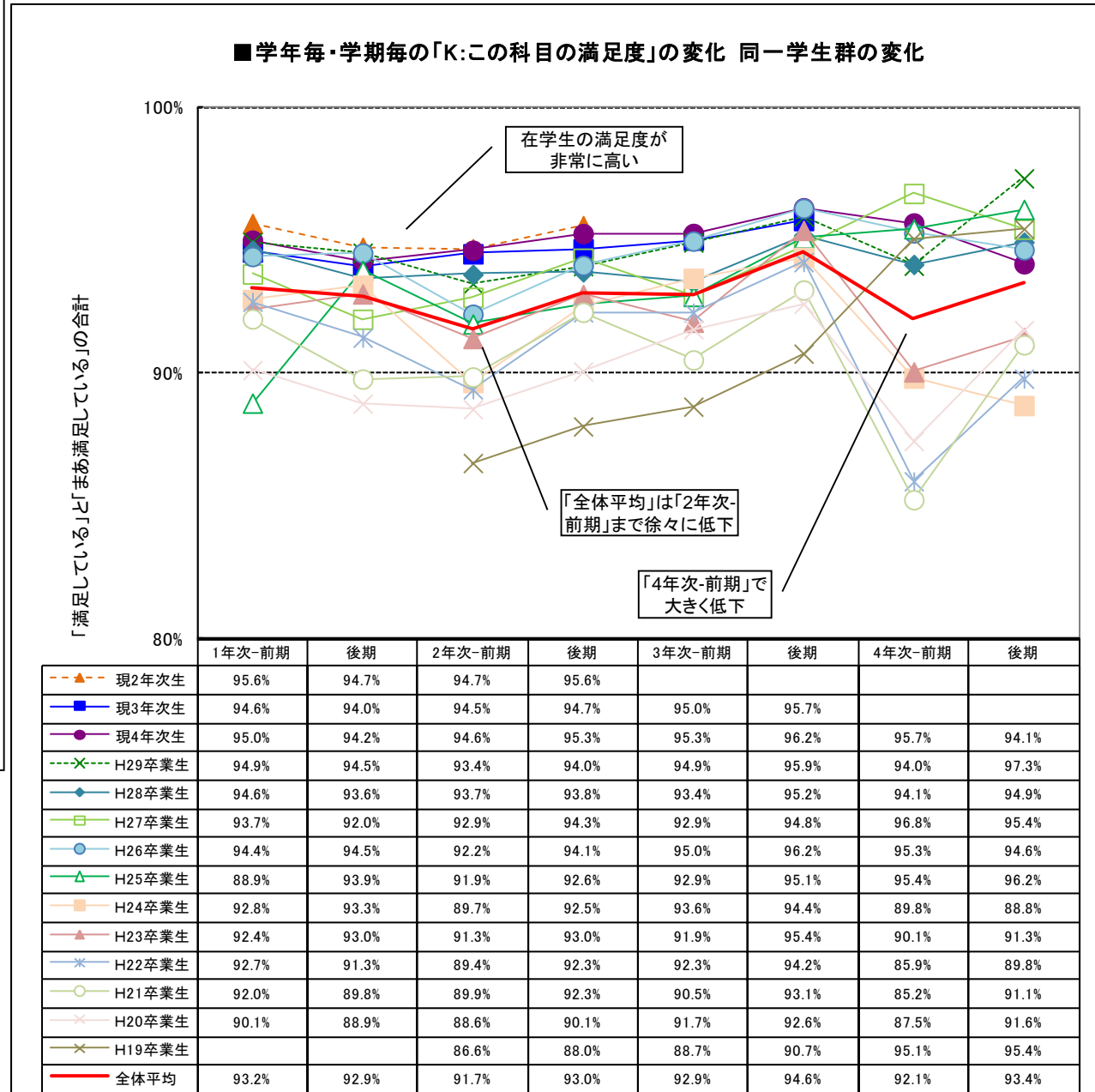
- 「J:教員の熱意」の「全体平均」を見ると、「2年次-前期」と「4年次-前期」にわずかに低下する傾向が見られるが、長期的には右肩上がりが続いており、学年が上がるほど教員の熱意を感じるようになっていけると言える。ただし、4年間を通して9割以上が肯定的な意見となっており、どの学年においてもしっかりと教員の熱意は伝わっているようであった。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標と同様に「H26卒業生」以降で肯定的な意見が多い傾向が見られ、特に「現2年次生」の高さはこれまでにないものであった。また、「現3年次生」「現4年次生」も継続的に高く、ほとんど落ち込みがないままとなっていた。
- 「H29卒業生」も継続的に高い状態で卒業に至っており、「4年次-後期」の高さは全体を通して過去最高であった。

■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	94.2%	94.9%	95.5%	96.3%				
---■--- 現3年次生	93.1%	94.0%	94.6%	95.1%	95.0%	96.1%		
---●--- 現4年次生	92.6%	93.7%	94.7%	95.5%	95.9%	96.2%	95.7%	96.8%
---×--- H29卒業生	93.0%	93.8%	93.5%	94.3%	95.4%	96.6%	95.6%	98.4%
---◆--- H28卒業生	92.2%	92.7%	93.7%	94.0%	93.9%	95.3%	96.0%	96.3%
---□--- H27卒業生	90.7%	92.1%	93.3%	94.6%	94.1%	94.8%	97.3%	96.9%
---○--- H26卒業生	92.2%	93.1%	91.7%	94.2%	95.5%	96.6%	95.5%	96.7%
---△--- H25卒業生	86.0%	92.5%	91.2%	92.6%	93.4%	95.4%	95.6%	96.9%
---◇--- H24卒業生	89.8%	91.4%	89.5%	91.8%	94.3%	95.6%	93.5%	94.5%
---▲--- H23卒業生	89.4%	91.7%	90.9%	92.6%	92.5%	95.4%	92.5%	93.1%
---*--- H22卒業生	89.5%	90.3%	88.9%	91.6%	92.9%	94.1%	90.6%	87.8%
---○--- H21卒業生	86.6%	87.0%	88.5%	90.7%	90.5%	92.9%	89.3%	90.2%
---×--- H20卒業生	84.6%	86.2%	86.7%	88.5%	90.7%	92.4%	90.3%	91.3%
---×--- H19卒業生			84.4%	86.6%	88.2%	89.0%	95.9%	95.8%
---●--- 全体平均	90.3%	91.8%	91.2%	92.7%	93.3%	94.7%	94.0%	94.6%

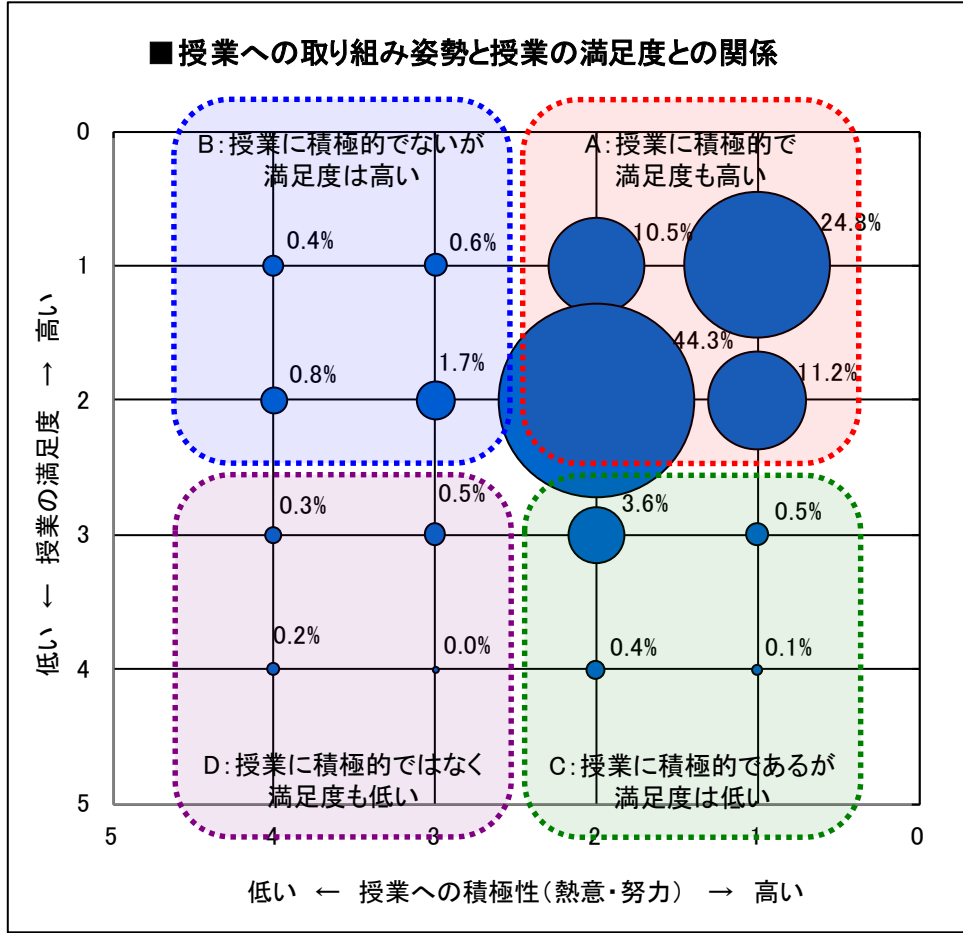
- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」も、他の主要な指標と同様に「2年次-前期」と「4年次-前期」で低下しているが、変動の幅は非常に小さく、常に9割以上が満足という回答であった。
- 学生群では、他の主要な指標と同様に「H26卒業生」以降の満足度が非常に高い傾向が見られ、満足度が95%以上という時期も多く見られた。そして、「4年次-前期」の落ち込みも少なくなっており、4年間を通して、あまり満足度が変わらないまま卒業に至っている学生群も多く見られるようになってきている。
- 特に「現2年次生」「現3年次生」「現4年次生」は継続的に満足度が高く、「H29卒業生」は「4年次-前期」で少し落ち込んだものの、「4年次-後期」では97.3%と、過去最高の満足度で卒業に至っていた。
- 「H25卒業生」以前の学生群を見ると、「3年次-後期」から「4年次-前期」にかけての満足度の低下が非常に大きかったが、最近の学生にはその傾向がほとんど見られず、学生の意識の変化が感じられる。



<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

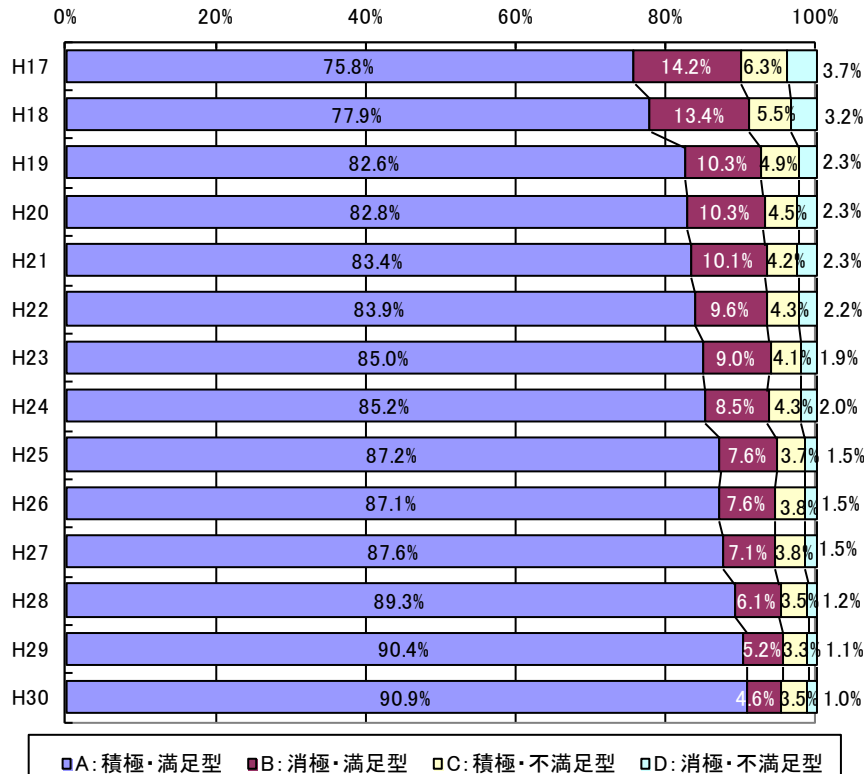
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」グループは90.9%であり、9割の学生が授業に積極的に取り組んでおり、満足度も高いようであった。この中でも「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は24.8%であった。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」グループは4.6%であった。これらの学生は授業には積極的でないが満足度は高いという学生群であり、教員の指導に引っ張られている学生ではないかと思われる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」グループは3.5%であった。これらの学生は授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、満足度が低いという学生群であり、積極性が失われないようにしっかりとフォローしていく必要があると思われる。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」グループは1.0%であった。これらの学生は割合としては少ないものの、しっかりとフォローしていく必要がある学生群と言える。



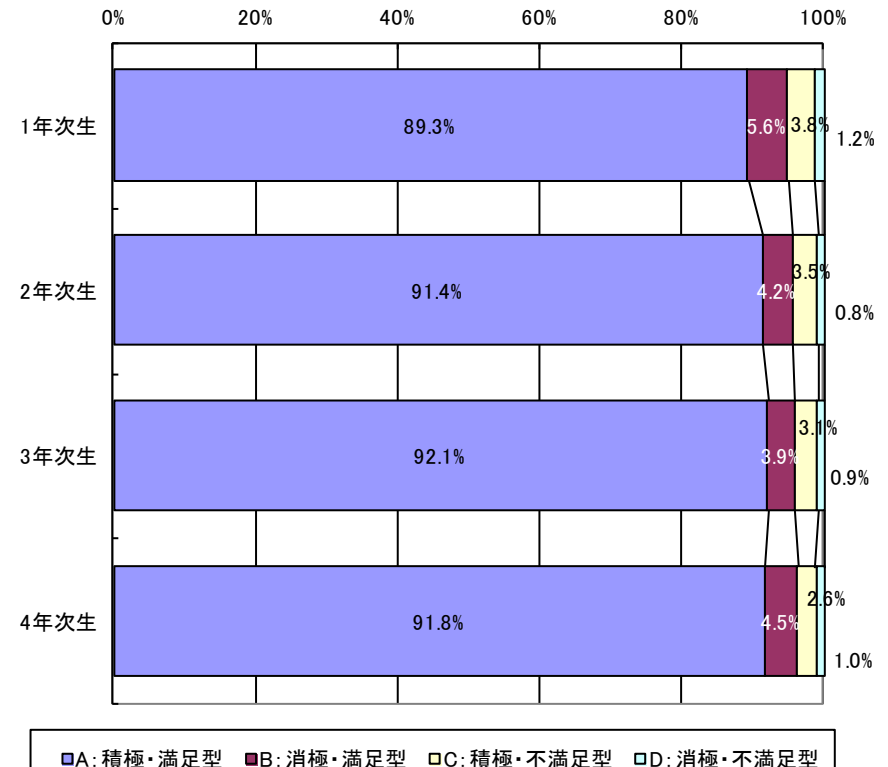
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	90.9%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	4.6%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っばられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	3.5%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	1.0%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で分けた4グループの経年変化を見たところ、「A:積極・満足型」は前回は0.5ポイント上回った。例外はあるものの、基本的には調査開始から増加傾向が続いており、今回は過去最高の割合であった。
- 「B:消極・満足型」は前回は0.6ポイントの低下、「C:積極・不満足型」が0.2ポイントの上昇、「D:消極・不満足型」が0.1ポイントの低下であった。
- 学年別に「A:積極・満足型」の割合を比較したところ、「3年次生」が92.1%と最も多く、次いで、「4年次生」が91.8%、「2年次生」が91.4%、「1年次生」が89.3%と続いており、差は最大で2.8ポイントと小さかった。そして、他の3グループも学年による差はほとんど見られなかった。

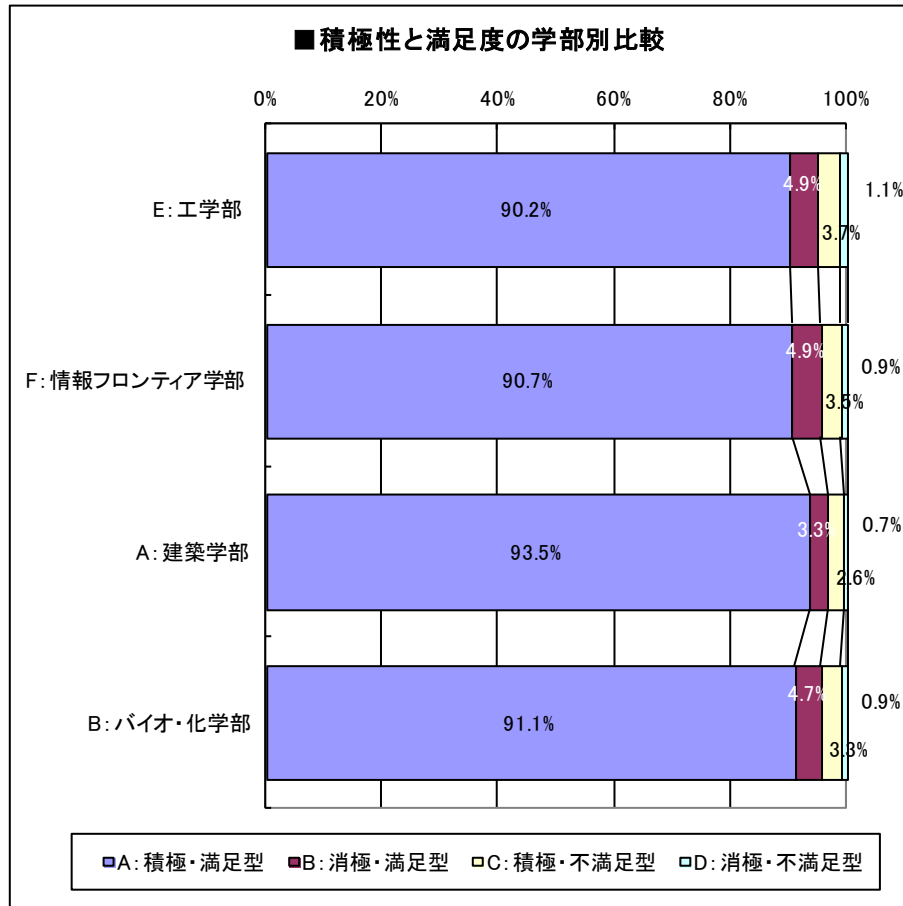
■ 積極性と満足度の経年変化



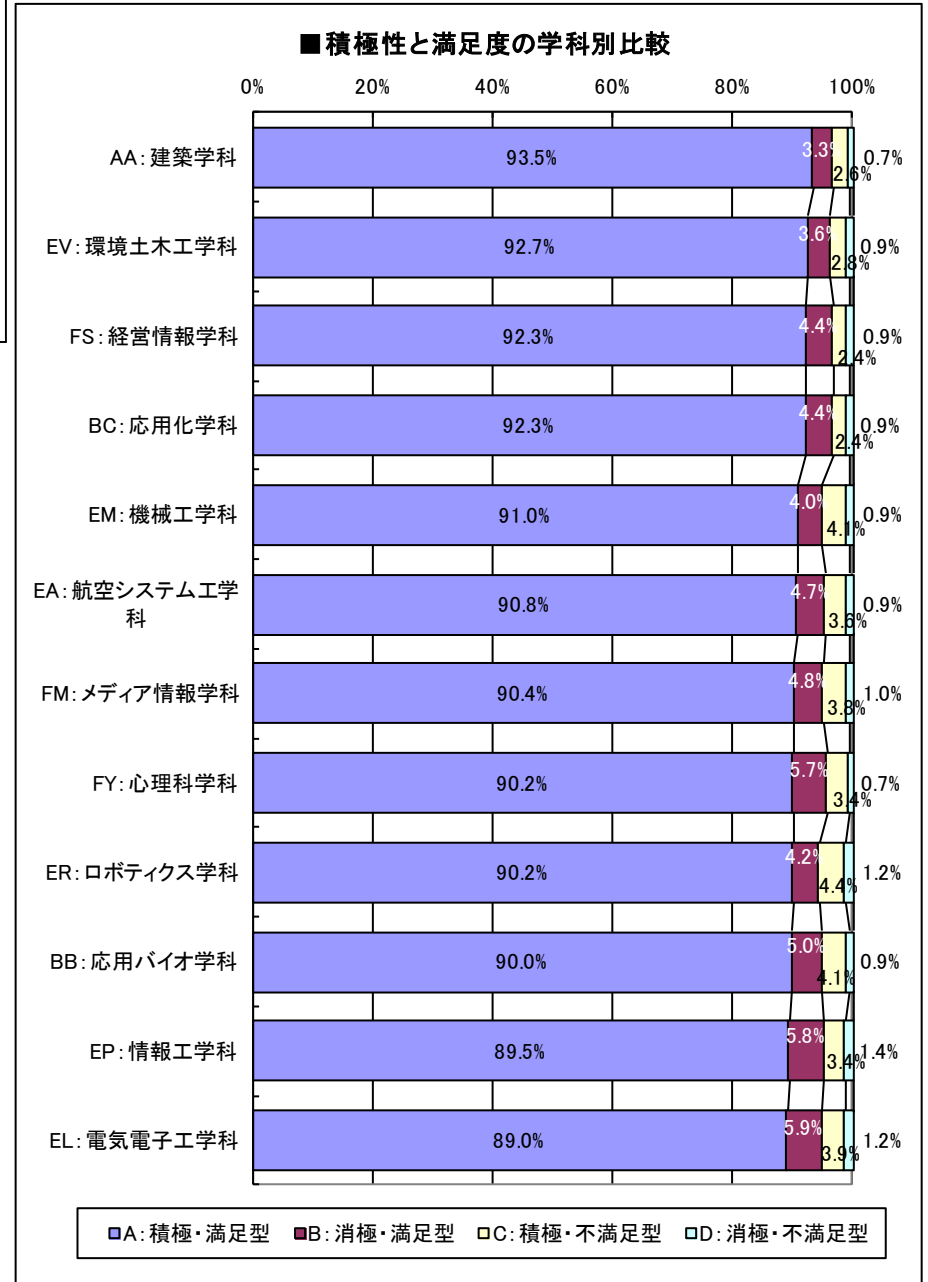
■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部別に「A:積極・満足型」の割合を比較したところ、「A:建築学部」が93.5%で最も多く、次いで、「B:バイオ・化学部」が91.1%、「F:情報フロンティア学部」が90.7%、「E:工学部」が90.2%と続いており、差は最大で3.3ポイントであった。
- 上記以外の3グループも、学部による差はわずかであり、大きな特徴は見られなかった。



- 学科別比較は、「A:積極・満足型」の割合でソートしているが、最も多かったのは「AA:建築学科」の93.5%であった。次いで、「EV:環境土木工学科」が92.7%、「FS:経営情報学科」と「BC:応用化学科」が92.3%、「EM:機械工学科」が91.0%と続いていた。
- 一方、「A:積極・満足型」の割合が最も少なかったのは、「EL:電気電子工学科」の89.0%であり、「AA:建築学科」との差は4.5ポイントであった。続いて、「EP:情報工学科」が89.5%、「BB:応用バイオ学科」が90.0%、「ER:ロボティクス学科」が90.2%と続いており、下位には「E:工学部」の学科が多く見られた。



<8> 全体のまとめ

<8-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

授業に対する事前の興味は非常に高く、積極性を持って授業に望んでいる様子が見えられた。そして、過去最高の95.2%が教員の熱意を感じ、最終的には95.0%が満足と答えていた。

- ◆ 授業への「事前の興味」では前回と同じ82.7%、「事前の内容理解」では前回からマイナス0.1ポイントの90.2%、「自分の熱意と努力」は過去最高の92.8%が肯定的な意見であり、授業の前段階の指標はいずれも高く、非常に期待して授業に望んでいる様子が見えられた。
- ◆ 授業の内容では、「教科書・指導書の適切さ」では87.8%、「課題・レポートの適切さ」では93.0%、「学習支援計画書との一致」では97.5%、「授業の進捗の適切さ」では93.9%、「学習相談の有効性」では93.5%が肯定的な意見であり、過去最高の評価のものも多く、非常に高評価であった。
- ◆ 最終的な「満足度」では、95.0%が満足と答えており、「教員の熱意」も過去最高の95.2%が肯定的な意見となっていた。

【経年変化で確認できた事】

「自分の熱意と努力」「学習支援計画書との一致」「教員の熱意」は過去最高となり、「満足度」も非常に高かった。学習時間は長くなり、「学習をしない」層は過去最低であった。

- ◆ 今回は「自分の熱意と努力」「学習支援計画書との一致」「教員の熱意」の評価が前回は上回り、いずれも過去最高の評価になった。特に「自分の熱意と努力」の増加が大きく、「課題・レポートの適切さ」は前回と同じ評価であった。
- ◆ 「満足度」は前回はわずかに下回ったものの、非常に高い状態を保っていた。
- ◆ 「予習・復習、課外学習活動」を見ると、学習時間は継続的に長くなる傾向にあり、「学習は特にしなかった」は過去最低となっていた。

【学年別比較で確認できた事】

学年による差は全体的に小さかったが、「1年次生」で「事前の興味」「教科書・指導書の適切さ」「学習相談の有効性」がやや低く、「4年次生」は全体的にわずかに高めであった。

- ◆ 学年間の差は全体的に非常に小さかったが、「1年次生」でやや低いものが見られた。特に「事前の興味」「教科書・指導書の適切さ」「学習相談の有効性」の評価が低かった。
- ◆ 一方、「4年次生」は全体的にわずかに高めであったが、目立って高いものは見られなかった。
- ◆ 上記以外では、「3年次生」の「事前の興味」がやや高く、「2年次生」には高いもの、低いものは見られなかった。
- ◆ 「予習・復習、課外学習活動」では、高学年ほど学習時間が長くなる傾向が見られた。

【学部別・学科別比較で確認できた事】

学部による差は小さいが、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」にはやや差があり、すべての項目で「建築学部」が最も高かった。

- ◆ 全体的に学部による差は小さかったが、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」でやや差が大きかった。そして、すべての項目で「建築学部」が最も高かった。
- ◆ 「工学部」では、5項目で「環境土木工学科」が、3項目で「航空システム工学科」が最も高かった。一方、「電気電子工学科」は6項目で最も低かった。ただし、いずれも目立つものではなく、学科間の差は小さかった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」も学科による差は小さかったが、7項目で「経営情報学科」が最も高く、特に「事前の興味」の高さが目立っていた。
- ◆ 「バイオ・化学部」は、全項目で「応用化学科」の評価の方が高かった。

【科目区分別比較で確認できた事】

「事前の興味」は科目区分による差が大きく、特に「修学基礎科目」の低さが目立っていた。そして、差は小さいものの全体的に「英語科目」がやや高めであり、「数理基礎科目」が低めであった。

- ◆ 「事前の興味」は科目区分によって大きな差がついており、特に「修学基礎科目」の低さが目立っていた。
- ◆ 上記以外では、それほど大きな差はついていなかったが、9項目で「英語科目」が最も高かった。
- ◆ 全体的に肯定的な意見が少ない科目区分は見られなかったが、「数理基礎科目」で6項目、「修学基礎科目」で3項目が最も低かった。ただし、いずれも差はわずかであり、目立って低いというものではなかった。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は継続的に増加が続き、今回は過去最高の90.9%であった。「積極・満足型」の割合は、学年別には「3年次生」で多く、学部別では「建築学部」が多く、「工学部」が少なかった。

- ◆ 「積極・満足型」は継続的に増加傾向であり、今回は過去最高の90.9%となった。
- ◆ 学年別に見ると、「積極・満足型」は「1年次生」で89.3%、「2年次生」で91.4%、「3年次生」で92.1%、「4年次生」で91.8%と差は少なかった。
- ◆ 学部別に「積極・満足型」を比較すると、「建築学部」が93.5%で最も多く、最も少ないのは「工学部」の90.2%であった。学科では1学部1学科である「建築学科」が93.5%で最も多く、次いで、「環境土木工学科」「経営情報学科」「応用化学科」などが続いており、最も少なかったのは「電気電子工学科」の89.0%で、「建築学科」との差は4.5ポイントであった。

【同一学生群で確認できた事】

「H26卒業生」以降の学生群は充実度が高い傾向が見られる。以前の学生群に見られた「4年次-前期」での「熱意と努力」と「満足度」の低下がなくなり、学生の特性が変わっているように思われる。

- ◆ 同一学生群で「事前の興味」「自分の熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」の変化を見ると、「H26卒業生」以降の学生群で肯定的な意見が多くなる傾向が見られ、特に「現2年次生」を筆頭として、現在の在学生在が充実している様子がうかがえた。
- ◆ 「自分の熱意と努力」「満足度」は入学から「3年次-後期」まで、ほぼ右肩上がりに変化し、「4年次-前期」でわずかに低下し、「4年次-後期」に再び上昇して卒業に至る傾向が見られたが、最近の学生群では「4年次-前期」での低下が少ない学生群が見られるようになってきた。特に「H29卒業生」は卒業時に「教員の熱意」と「満足度」が過去最高となるなど、学生の特性が変わっているようにも見受けられる。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- 授業に対する事前の興味は非常に高く、積極性を持って授業に望んでいる様子が見え、そして、過去最高の95.2%が教員の熱意を感じ、最終的には95.0%が満足と答えていた。
- 「自分の熱意と努力」「学習支援計画書との一致」「教員の熱意」は過去最高となり、「満足度」も非常に高かった。学習時間は長くなり、「学習をしない」層は過去最低であった。
- 学年による差は全体的に小さかったが、「1年次生」で「事前の興味」「教科書・指導書の適切さ」「学習相談の有効性」がやや低く、「4年次生」は全体的にわずかに高めであった。
- 学部による差は小さいが、「事前の興味」と「教科書・指導書の適切さ」にはやや差があり、すべての項目で「建築学部」が最も高かった。
- 「事前の興味」は科目区分による差が大きく、特に「修学基礎科目」の低さが目立っていた。そして、差は小さいものの全体的に「英語科目」がやや高めであり、「数理基礎科目」が低めであった。
- 「H26卒業生」以降の学生群は充実度が高い傾向が見られる。以前の学生群に見られた「4年次-前期」での「熱意と努力」と「満足度」の低下がなくなり、学生の特性が変わっているように思われる。
- 「積極・満足型」は継続的に増加が続き、今回は過去最高の90.9%であった。「積極・満足型」の割合は、学年別には「3年次生」で多く、学部別では「建築学部」が多く、「工学部」が少なかった。



- ❖ 多くの指標が継続的に良くなる傾向にあり、教員の熱意を感じるという意見が過去最高の95.2%、満足度も過去最高に近い95.0%であり、指標的に見ると授業に対する取り組みには大きな課題はないと言える。
- ❖ 「H26卒業生」以降の学生群は充実度が高い傾向が見られ、特に在学生の充実度の高さが目立っていた。これらの学生に共通しているのは「中だるみ」のなさであり、充実度が高いまま卒業に至る学生群が増加しているようであった。
- ❖ 上記のように学生の特性の変化が見られることから、「積極性の高い学生の更なる成長を支える施策」や「積極性の高い学生の受け皿としての大学院の充実」なども今後のテーマになるのではないかとと思われる。